

防災学習指導計画（案）

令和元年 6 月

国土交通省 延岡河川国道事務所

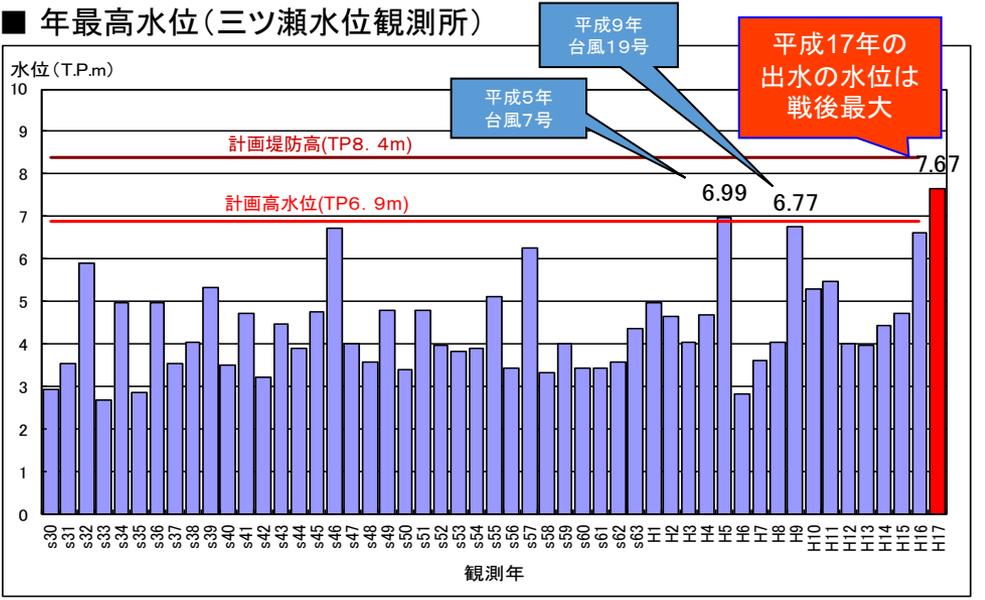
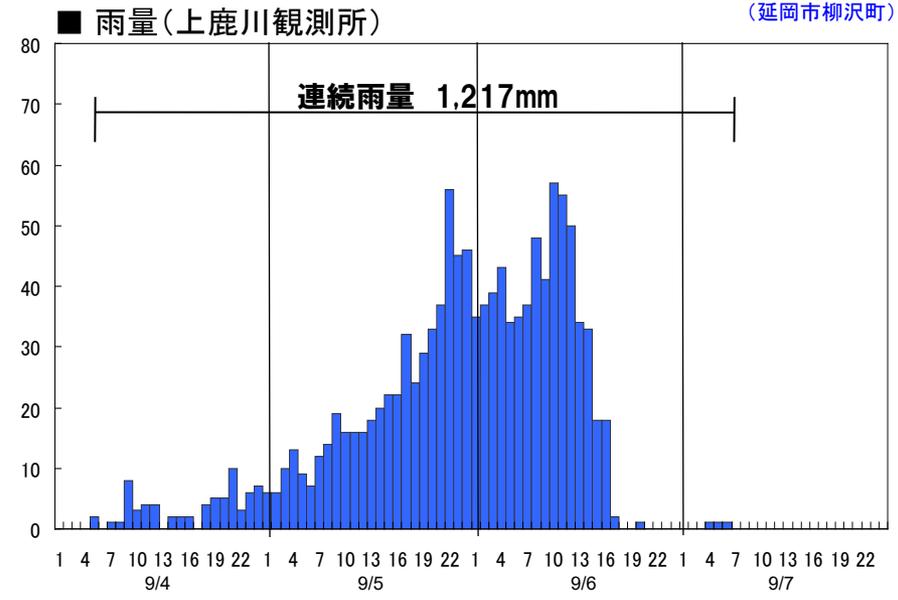
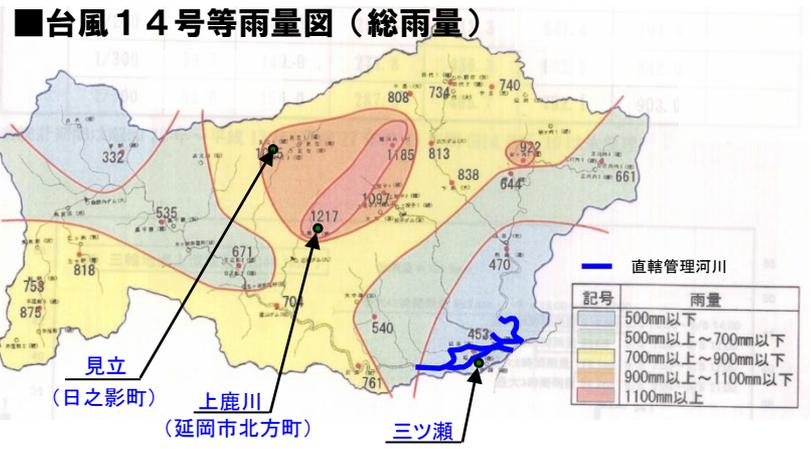
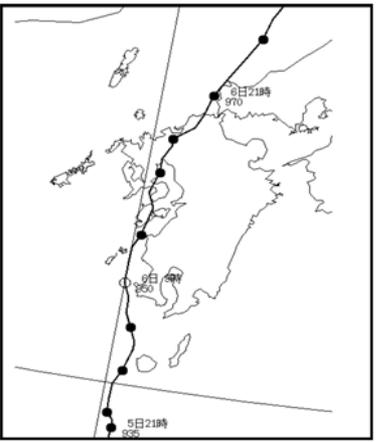
目次

1 水防災意識社会再構築ビジョンとは	P 2
(1) 五ヶ瀬川流域の特徴と災害	P 3
(2) 水防災意識社会再構築ビジョンとは	P 4
(3) 五ヶ瀬川水系等浸水被害及び土砂災害軽減対策協議会	P 5
2 防災学習指導計画の概要	P 6
(1) 防災学習指導計画の目的と到達点	P 7
(2) 防災学習指導計画の対象	P 8
3 防災学習指導計画（地域リーダー向け）	P 9
(1) 概要	P10
(2) 研修セット	P11
(3) マイ防災マップ・コミュニティタイムライン作成の流れ	P12
4 防災学習指導計画（教員向け）	P46
(1) 社会の授業「自然災害を防ぐ」 ①	P47
(2) 社会の授業「自然災害を防ぐ」 ②	P69
(3) 理科の授業「流れる水のはたらき」	P87
(4) 参観授業「災害から命を守る」	P100

1 水防災意識社会再構築ビジョンとは

(1) 五ヶ瀬川流域の特徴と災害

台風14号は、平成17年9月6日宮崎県内を暴風域に巻き込みながら、九州西海上を通過し、五ヶ瀬川流域では、上鹿川(延岡市北方町)で1,217mm、見立(日之影町)で1,025mm、上祝子(延岡市北川町)で1,097mmを観測するなど記録的な豪雨をもたらしました。今回出水により五ヶ瀬川・大瀬川では軒並み既往最高水位を観測し、国管理区間内の5箇所で越水、また国管理区間で4箇所、宮崎県管理区間で1箇所の内水被害が発生。この出水により、**浸水面積431ha**、**床上浸水1,315戸**、**床下浸水399戸**に達する甚大な被害が発生しました。



(2) 水防災意識社会再構築ビジョンとは

水防災意識社会再構築ビジョンとは、関東・東北豪雨を踏まえ、平成32年度を目途に水防災意識社会を再構築するソフト・ハード対策の取り組みを行います。住民自らリスクを察知し主体的に避難できるような取り組みを実施します。

(参考) **水防災意識社会 再構築ビジョン**

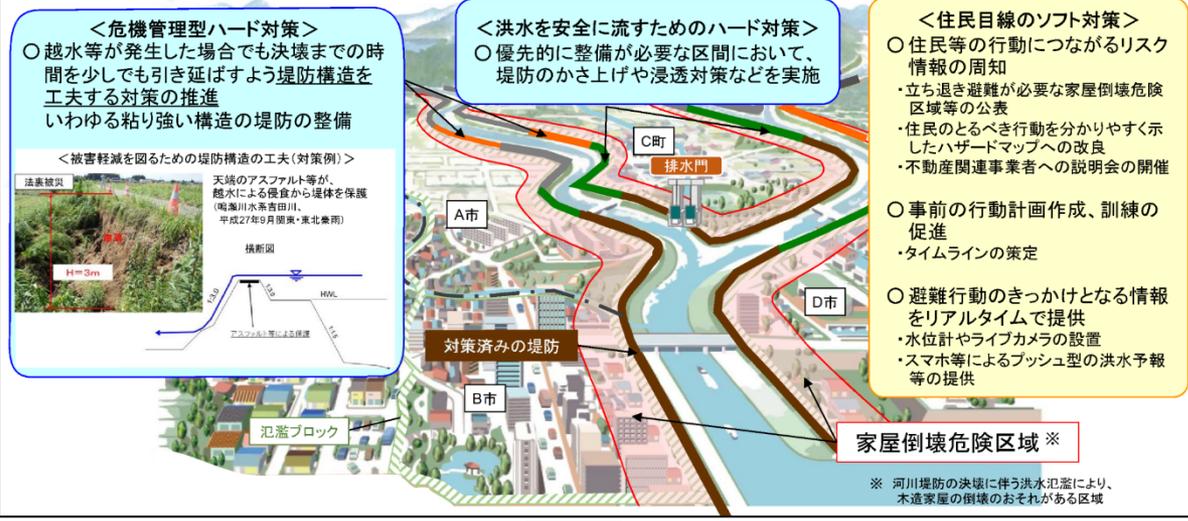
平成27年12月11日
水防災意識社会
再構築ビジョン
報道発表資料

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「**水防災意識社会 再構築ビジョン**」として、全ての直轄河川とその沿川市町村(109水系、730市町村)において、平成32年度目途に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

<ソフト対策> ・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

<ハード対策> ・「洪水を安全に流すためのハード対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

主な対策 各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。



写真提供：関東地方整備局



常総市役所から駐車場を撮影(撮影日：9/11)
周辺は浸水し、防災拠点の市役所も孤立化。

ソフト対策として住民自らリスクを察知し主体的に避難できるような取り組みを実施します。

五ヶ瀬川水系等浸水被害及び土砂災害軽減対策協議会とは、水防災意識社会再構築ビジョンの取り組みを円滑に進めるために設置された会議です。

【概ね5年間で達成すべき目標】

- ① 大規模氾濫等に対し地域防災力を高め「水害・土砂災害に強い地域づくり」を目指す
- ② 広域的な浸水被害・土砂災害に対し「安全な場所への確実な避難」・「被害の最小化」を図る

1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項 **延岡河川国道事務所**

③ハザードマップの作成や訓練等への活用に関する情報提供及び避難計画等を反映した洪水及び土砂災害ハザードマップの策定・周知 **【訓練等への活用に関する情報提供】**

○ハザードマップの作成や訓練等に活用できる
○要配慮者施設管理者を対象とした避難確保
○広く訓練等に活用できるようにホームページ

情報提供



想定最大クラスの被害イメージ映像の情報提供

要配慮者施設講習会での情報提供 (H31.2.7実施)

■要配慮者避難確保計画講習会に関する記事



2019年2月13日
タリデイリー

2019年2月15日

■成果
○要配慮者講習会に関する記事の掲載

■今後
○想定される

1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項 **延岡河川国道事務所**

⑥防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進 **【三須地】**

○第1回会議は、防災に関する基礎知識の習得とまち歩きと防災マ
○第2回会議は、避難のタイミングを検討するタイムラインの検討
○第3回会議は、今後の運用について定期的な訓練等で防災マッ

防災マップづくり (H30.12.2実施) タイムライン作成 (H30.12.1)

■参加者の感想 ~日頃からの動機づけが大切~

■成果
○住民自身が、いざという時に避難するか考え、避難時の注点を共有した。定型的に防災マップやタイムラインを確認する活動につなが

■今後に向けて
○今回、三須地区研修セットとしての支援を行う予定
○防災訓練で活用予

1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項 **延岡河川国道事務所**

⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進 **【防災授業の支援: 岡富小学校(自然災害を防ぐ)】 昨年から継続実施**

五ヶ瀬川を題材とした防災学習 (平成31年2月)
~自分たちのいのちを守るためにできることを考える~

五ヶ瀬川を題材とした防災学習が、平成31年2月25日と26日に岡富小学校の5年生を対象に行われました。協議会委員の指導で行われ、事前から疑問をもちながら学習し、地域住民の方はどんな取組をしたか知り、防災意識を高めました。昨年と同様に水害の写真や映像、模型を使って学びました。最後に、自分たちのいのちを守るためにできることを父兄の方と一緒に考えました。

【2月25日の学習の振り返り】
①どんな災害がおきやすい?
②2月26日の学習の流れ
①授業で学んだことを振り返る
②国や地域の取組について考える
③国や地域の取組について知る
④自分たちのいのちを守るためにできることを考える
⑤発表発表をします

■目的は、水害の写真や映像を見て感じたことを発表
■目的は、模型やパワーポイントを使って発表

どんな災害がおきやすい? 水害の写真や映像を見て感じたことを発表

■目的は、模型やパワーポイントを使って発表

①前時の振り返りのめあてをたてる 命を守るための取組を知る
■目的は、前時だけでなく前時学習で学んだ内容を振り返って発表しました。

②国や地域の取組について知る、考える 絵や模型を使って説明
■水害から人々の命を守るための国や地域の取組について、子供たちは疑問に思っていた取組について発表し、絵にまとめて発表しました。また、模型やパワーポイントで説明がありました。国からの取組も発表しました。

③まとめ
■最後に、「水害からくらしや命を守るために、国や地域は様々な取組を行っているとともに、自分たちもできることを実行しながらうことが大事である」ということをまとめとして発表しました。

1) 平時からの住民等への周知・訓練に関する事項 **延岡河川国道事務所**

③地域住民の取組について知る、考える **自分たちでできること**

■地域住民の取組について学んだ後、自分たちの命を守るために自分たちでできることを発表しました。

【子供たちの発表】自分たちでできること
●避難する場所を決めておく
●避難経路を事前に知る
●警報から水害があった場所を確認しておく
●大工さんだと思わないで早めに避難する
●地盤を知る など

自分たちでできることは?

自分たちでできることについて発表を共有

④まとめ

2 防災学習指導計画の概要

(1) 防災学習指導計画の目的と着地点

防災学習指導計画を作成する目的は、住民自らリスクを察知し主体的に避難できるようにするために、起こりうるリスクや対策をについて、住民自らが考え、行動をとってもらうために

目的

**住民自らリスクを察知し主体的に避難できるようにする
防災学習指導計画を活用**

- そのために、まず被害をイメージできるようにする（起こりうるリスクを知る）
- 起こりうるリスクを踏まえ対策を考える
 - ⇒どこに避難するかを考える
 - ⇒いつ避難するかを考える
 - ⇒行動を起こすための情報を知る

着地点

いざというときに臨機応援に行動できるように
日頃から訓練や講習会で意識づけしておく

(2) 防災学習指導計画の対象

防災学習指導計画は、流域住民に対して防災学習を指導する立場にある地域リーダー（消防団、防災推進員等）や学校現場の方（教員等）を対象としています。



地域リーダーが避難経路や避難のタイミングを住民に教える資料として活用できます。

教員が防災授業「自然災害を防ぐ」で、「自分たちの命を守るためにできることは何か」について子供たちに考えさせるための資料として活用できます。



避難経路の検討
(マイ防災マップ)

	平常時	台風発生時	台風接近	少雨・弱風	雨風が強くなる	台風接近 雨風強い
京浜情報
大井川の橋
西から襲来される情報
住民
住居 (住居が密集する)
自治会役員
消防団
民生委員
官公庁

避難のタイミングの検討
(コミュニティタイムライン)



- (子供たちの意見) 自分たちでできること
- 避難する場所を決めておく
 - 避難訓練を真剣にする
 - 普段から水害があった場所を確認しておく
 - 大丈夫だと思わないで早めに避難する
 - 地形を知る
- など

自分たちでできることは？

自分たちでできることについて意見を共有

3 防災学習指導計画（地域リーダー向け）



(1) 概要

◆地域リーダーが地域住民を対象に防災学習を行うための支援ツールを使います

地域リーダーが住民を対象に実践できる手順書として作成しています！

<セットの特徴>

- ◎ 消防団、防災推進員の活用を想定
- ◎ マップの作成方法、研修の進め方の手順等をケーススタディに沿って説明
- ◎ 写真や作成事例、作成のポイントを記載

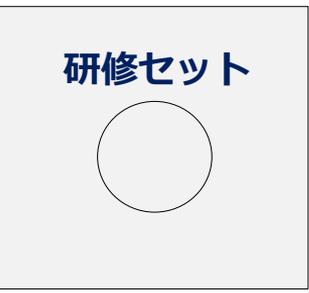


◆研修セット：研修セットには「マイハザードマップ」と「コミュニティタイムライン（避難のタイミング）」の作成する際に必要なツールがそろっています。

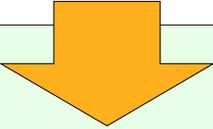
実際の作成状況を事例を紹介しながら整理しています。作成事例もあります

(2) 研修セット

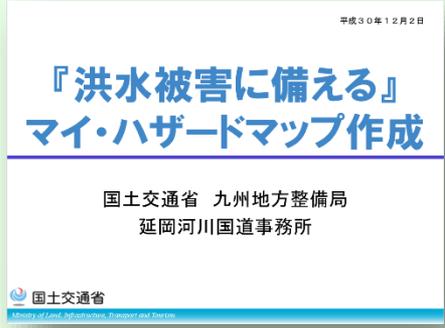
- ◆ 第1回ワークショップ説明資料 (パワーポイント)
- ◆ 第2回ワークショップ説明資料 (パワーポイント)
- ◆ まち歩きセット
- ◆ マイハザードマップ (作成事例: 三須地区)
- ◆ コミュニティタイムライン (作成事例: 三須地区)



DVD



◆ 第1回ワークショップ説明資料
(パワーポイント)



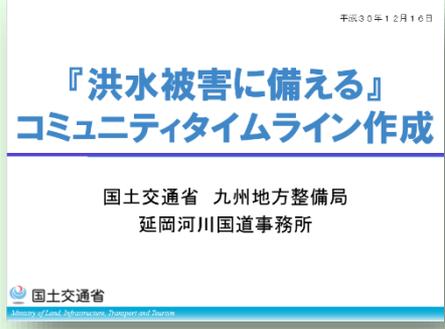
◆ マイハザードマップ
(作成事例: 三須地区)



◆ 水害の映像
(平成17年9月台風14号)



◆ 第2回ワークショップ説明資料
(パワーポイント)



◆ コミュニティタイムライン
(作成事例: 三須地区)



防災シール



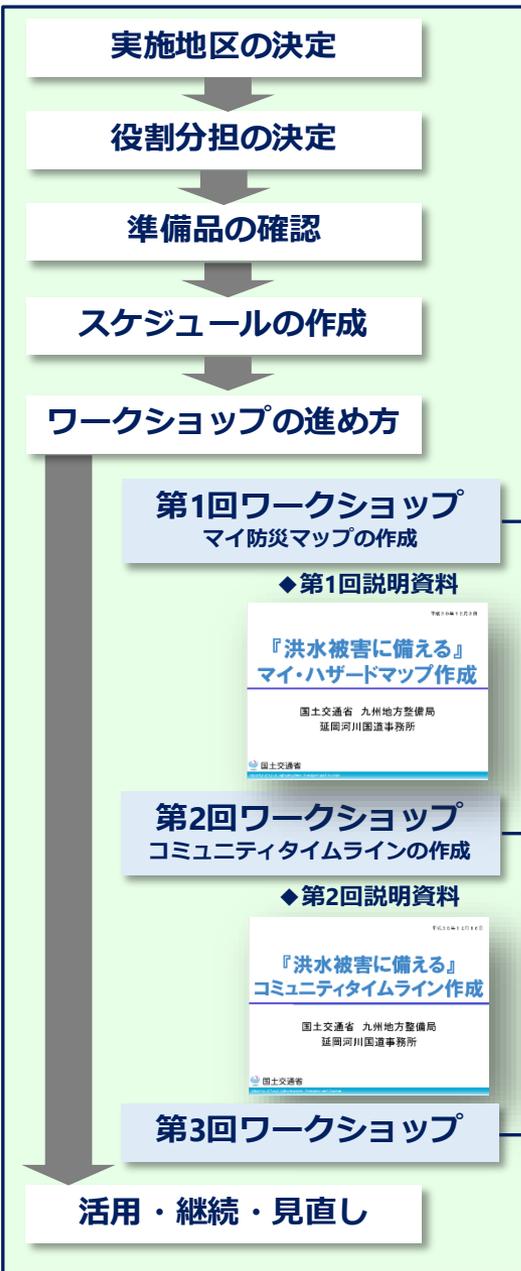
◆ まち歩きセット
安全・危険ポイント チェックシート



チェックポイント	気になったこと
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

写真番号





水害に関する基礎知識

まち歩き

マイハザードマップ作成

マイハザードマップの確認

コミュニティタイムラインの説明

コミュニティタイムラインの作成

マイ防災マップ、コミュニティタイムラインの完成報告

活用方法の検討

研修セットとの対応

◆水害の映像
(平成17年9月台風14号)

◆マイ防災マップ
(作成事例：三須地区)

◆まち歩きセット

防災シール

安全・危険ポイント

チェックシート

◆コミュニティタイムライン
(作成事例：三須地区)

1.参加者を決める

- 防災マップ、コミュニティタイムラインを作成するにあたり、ワークショップ*を実施するため、参加者となるメンバーを決定します。
- 対象地区の関係者をメンバーとします。

*ワークショップとは参加者が意見交換を行いながら、実践的な体験を通じて知識や技術を学ぶこと

ポイント

参加者は自治会の中でも消防団や学校関係者、民生委員等、**災害時にとるべき行動や目的に応じて関係する様々な立場の人の参加が望ましい**とされています。



2.リーダーを決める

- ワorkshopでの意見交換や作業を円滑に進めるために話し合いの進行役、まとめ役となるリーダーを選定します。

ポイント

リーダーは、**防災推進委員や消防団の方と連携**して、防災マップやコミュニティタイムライン作成に向けてワークショップを進行します。
(研修内容の事前の理解が必要です)



準備品の確認 (入手先)

1.地図の入手

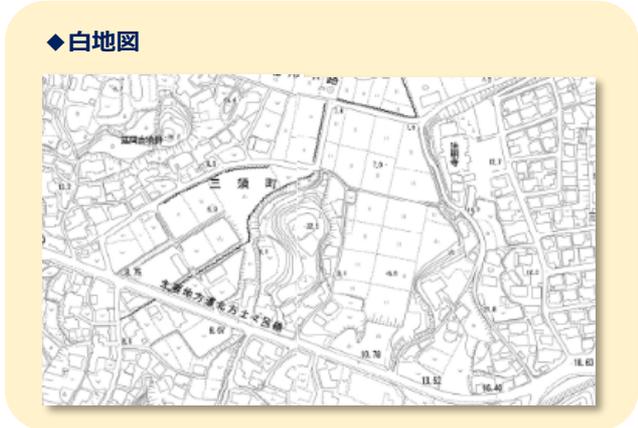
- 防災マップのベースとなる作業図面が必要です。

ポイント 各家屋や避難路となる道路、目印となる建物等を判別できる縮尺1/1000~1/2500程度の作業図面を用意します。

例えば

【延岡市】都市計画基本図

<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont=160518162115>



2.危険箇所の入手

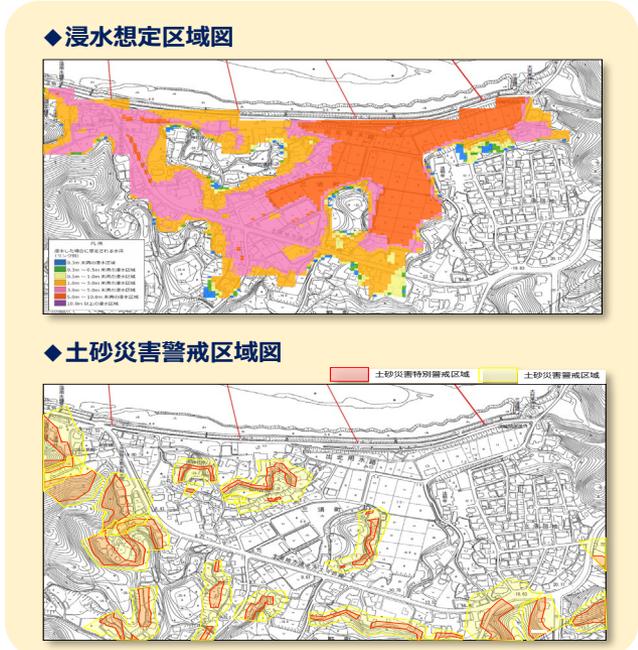
- 地区で想定される水害や土砂災害などのリスクをあらかじめ確認する必要があります。

ポイント 浸水想定区域図、洪水ハザードマップ、土砂災害警戒区域図等を入手し、作業図面に危険箇所を示しておきます。

例えば

【延岡市】防災・災害

<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont=170208142311>



【宮崎県】洪水浸水想定区域図について

例えば

<https://www.pref.miyazaki.lg.jp/kasen/shakaikiban/kasen/kouzuishinsui.html>

研修スケジュールの作成

- 防災マップ、コミュニティタイムラインは3回の**ワークショップ**を通して作成します。

各回のワークショップ内容

	開催時期	内容
第1回 ワークショップ	●月●日	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・水害に関する基礎知識 ・まちあるき ・マイ防災マップ作成 (危険箇所の整理、避難ルートの設定)
第2回 ワークショップ	●月●日	<ul style="list-style-type: none"> ・マイ防災マップの確認 ・コミュニティタイムライン (避難のタイミング) の作成 ・防災情報の入手方法の確認
第3回 ワークショップ	●月●日	<ul style="list-style-type: none"> ・マイ防災マップ、コミュニティタイムラインの完成報告 ・活用方法について

ポイント

- ・ワークショップの回数は3回程度が標準です。
- ・ワークショップは、参加者が意見交換をしながら進めていきます。そのため、参加者ができるだけ多い日を調整し、会場を確保しましょう。

活用方法の検討

- 作成した防災マップやコミュニティタイムラインを地区の住民に広く活用してもらうための方法を検討します。

案1) 地域の公民館、学校等に「マイ防災マップ」大判を掲示

案2) 全戸配布 (A3程度の大きさ)



- ◆ 公共施設に掲示することで多くの人に見てもらえる
- ◆ マップやコミュニティタイムラインに関する話し合いがしやすい

表



裏



- ◆ 地区全員に見てもらえる
- ◆ 訓練や実際の避難のときに持ち出しやすい (ラミネート加工することで雨の日でも使用可能)

ポイント

- 防災マップやコミュニティタイムラインは作成することが目的ではなく、**地区の住民に活用してもらうことが目的**です。
- **多くの人が見やすい、使いやすい**周知の仕方をワークショップ参加者で話し合い、**地区全体の防災意識の向上**を目指しましょう。

活用・継続・見直し

- 作成したマイ防災マップやコミュニティタイムラインを、**地区防災訓練等**で活用し、**定期的に見直し**を行います。

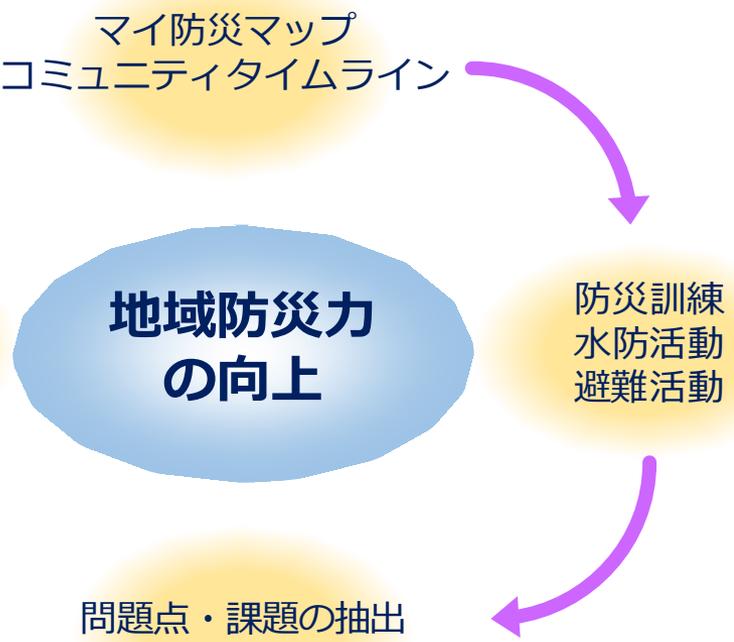
見直しの例



	平常時	台風発生時	台風接近	少雨・弱風	雨風が徐々に強くなる	台風接近 雨風強い
気象情報	気象庁発表	気象庁発表	気象庁発表	気象庁発表	気象庁発表	気象庁発表
大瀬川の情報	水位観測所	水位観測所	水位観測所	水位観測所	水位観測所	水位観測所
市から発せられる情報	防災メール	防災メール	防災メール	防災メール	防災メール	防災メール
住民 (住みか)	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ
住民 (家族が別居)	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ
自治会役員	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ	マイ防災マップ
消防	消防団	消防団	消防団	消防団	消防団	消防団
民生	民生委員	民生委員	民生委員	民生委員	民生委員	民生委員
官公庁	市役所	市役所	市役所	市役所	市役所	市役所
消防・警察・自衛隊	消防	消防	消防	消防	消防	消防

訓練ではこのタイミングでは間に合わないことがわかった...

自治体の連絡体制が変更になった...



ポイント PDCAサイクル (Plan=計画、Do=実行、Check=評価、Action=改善) を実施するため、継続的な体制をつくるのが重要です。

ワークショップの進め方

ここからは、ケーススタディ（延岡市三須地区：平成30年度実施）に沿って説明します。

第1回ワークショップの概要（三須地区の実施例）

第1回 三須地区マイ防災マップづくり ～まち歩きで危険箇所を確認、マイ防災マップの作成～

三須地区のマイ防災マップづくりの第1回会議が行われました。第1回会議は、水害に関する基礎知識を学び、実際に現場に出て避難ルートを歩き、危険なポイントや気になるところを確認しました。約1時間かけて現地を回りましたが、雨が急に降り出すなど、本番さながらのまち歩きとなりました。まち歩きで確認したポイントはマイ防災マップとして作成し、最後に成果を皆で共有しました。（次回は12月16日の予定）



平野区長

■日 時：平成30年12月2日

■会 場：三須町公民館

■参加者：三須地区住民（約20名）

延岡河川国道事務所、延岡市

■当日のスケジュール

13:00～13:30 水害に関する基礎知識

13:30～15:00 まち歩き

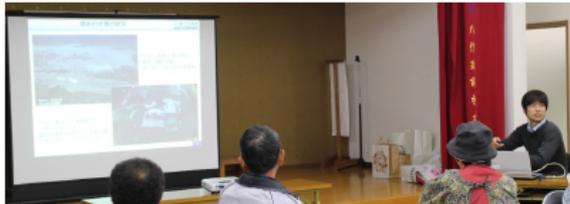
15:00～16:00 マイ防災マップ作成

①水害に関する基礎知識 延岡河川国道事務所から情報提供

水害に関する基礎知識について国土交通省延岡河川国道事務所より平成17年の水害等の情報が提供されました。



説明の様子（全景）



延岡河川国道事務所の説明

②まち歩き 現地で危険なポイントや気になるところを確認

まち歩きによってかけ崩れや深い溝があって浸水すると道路と水路の区別がつかなくなり危険なところなど、二手に分かれて1時間かけて現地を確認しました。確認した箇所は写真を撮ってメモをとりました。



土砂災害の危険箇所



土砂災害警戒区域を確認



危険箇所の写真撮影、記入



深い溝を確認



危険箇所の確認



標高の確認

③マイ防災マップ作成 まち歩きで確認した危険箇所や気づきを整理

まち歩きで確認した危険箇所や気づいた点を付箋紙やシールを使って整理しました。



危険箇所の確認



付箋紙の記入



危険箇所シールの貼り付け



マイ防災作成の様子（全景）



付箋紙の貼り付け



付箋紙の貼り付け



危険箇所シールの貼り付け



危険箇所の確認

④成果発表 みんなでまとめたマイ防災マップを代表者が発表

みんなでまとめたマイ防災マップの成果を発表し、皆で情報を共有しました。



1班の発表



発表の様子



2班の発表

⑤最後に 思いこみは危険、参加して広げていく、すぐに実施したい

最後に国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、区長よりコメントをいただきました。



延岡河川国道事務所

それほど大きな災害は発生しないという思い込みを持たないようしてほしい



延岡市危機管理室

市も参加して、三須地区の皆さんの行動を知り、他の地区に広げていきたい



区長

今回に引き続き、第2回、第3回のワークショップを12月に

①水害に関する基礎知識

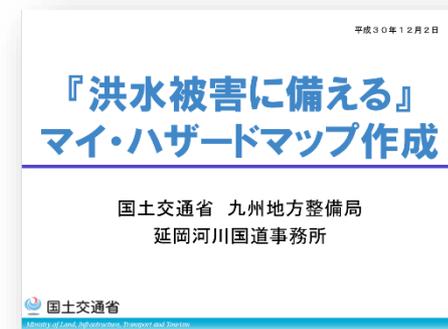
○水害に関する基礎知識の把握

マイハザードマップやコミュニティタイムラインを作成するにあたって、まずは検討対象となる水害について勉強します。

<主な項目>

- ◆ 過去の水害の状況（全国の事例、延岡市での事例を知ろう）
- ◆ 水の集まるエリア（五ヶ瀬川の水はどこに集まるの？）
- ◆ 近年の雨の傾向（集中豪雨が増えている？）
- ◆ 家庭でできること（水害リスクを知ろう）

◆第1回ワークショップ説明資料
(パワーポイント) を活用!



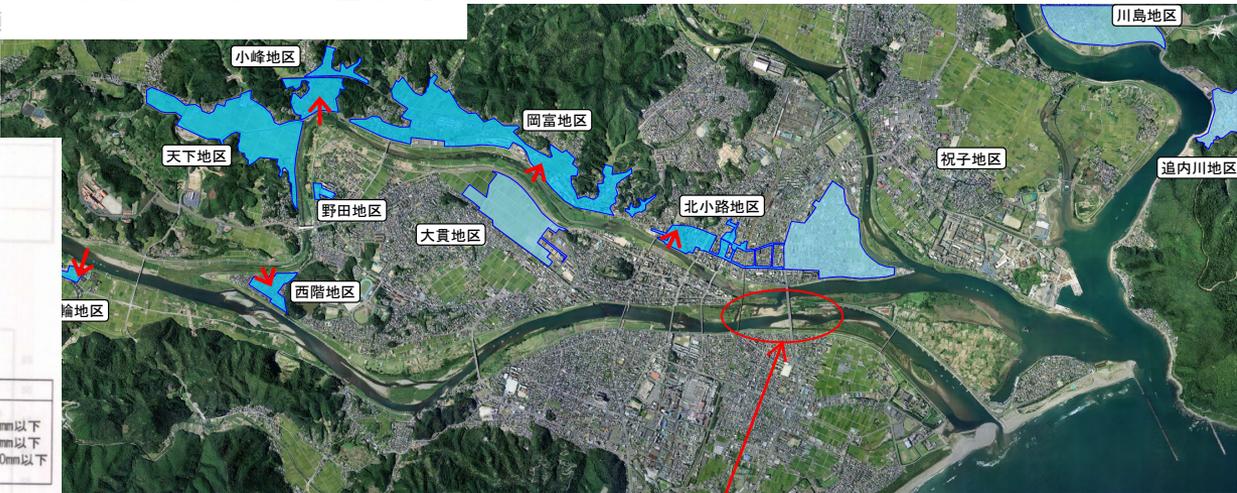
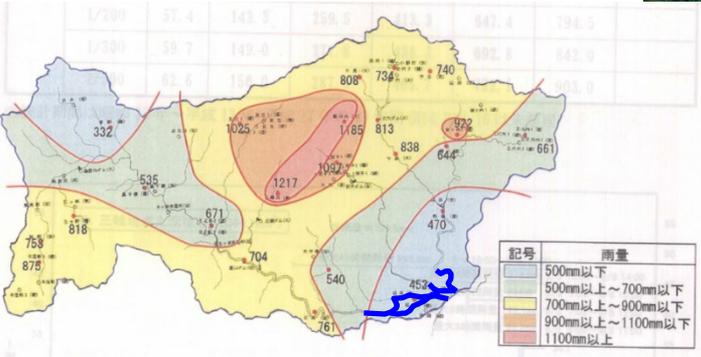
水害に関する基礎知識の把握（事例：三須地区ワークショップ）

①水害に関する基礎知識

◆ 過去の水害の状況（延岡市での事例：平成17年台風14号の事例）

- 記録的な豪雨により、流域各地で多くの災害が発生。
- 延岡市においても、堤防越水による外水氾濫および内水氾濫により、床上浸水1,315戸、床下浸水399戸に達する甚大な被害が発生

■ 台風14号等雨量図（総雨量）



五ヶ瀬川筋は、隔流堤が無かったことから、堤防より越水被害が拡大

■ 外水氾濫
■ 内水氾濫



ポイント

- ✓ 身近な地域で起こった水害を知ること
で、**防災意識の向上**を図ります。
- ✓ **浸水被害の様相を視覚的に体験**してもらえ
るように、水害の映像を活用して
ください。

◆ 水害の映像を活用！
(平成17年9月台風14号)



①水害に関する基礎知識

◆水の集まるエリア（五ヶ瀬川の水はどこに集まるの？）

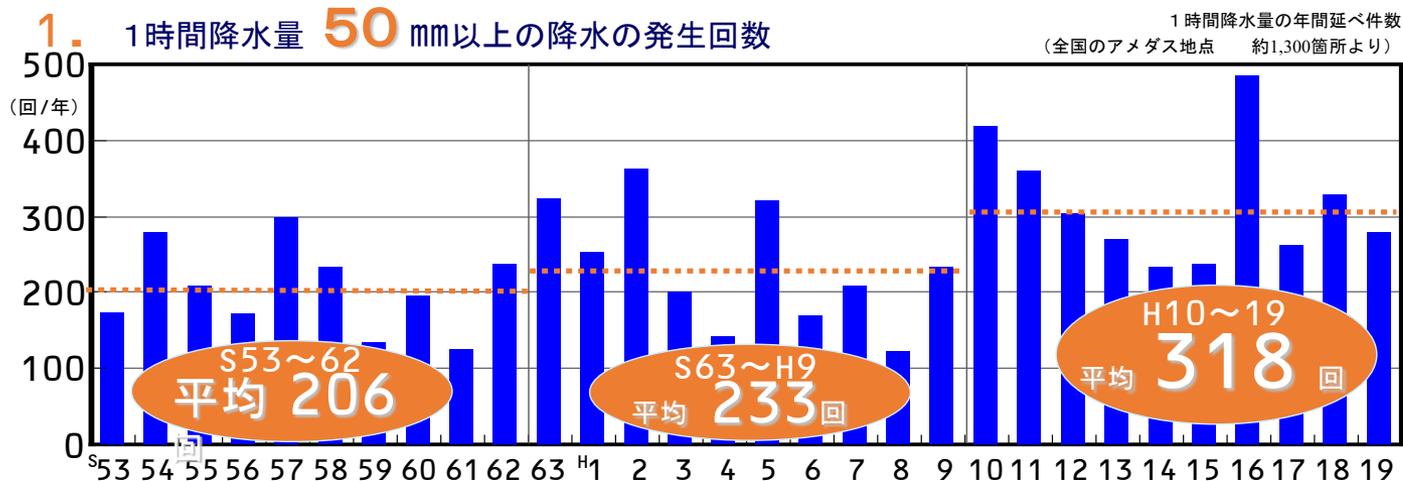


※1,820km² 九州の20分の1

五ヶ瀬川水系は九州第4位の大きな川

①水害に関する基礎知識

◆ 近年の雨の傾向（集中豪雨が増えている？）



資料) 気象庁資料より作成

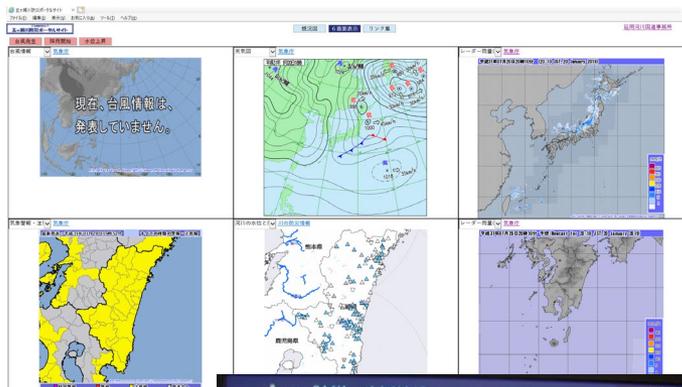
全国的に集中豪雨の発生回数や頻度が増えており、自分たちの住んでいる地域でも水害の発生リスクが高まっていることを伝えます。

①水害に関する基礎知識

◆ 家庭でできること（水害リスクの把握や避難のための情報収集をしよう）

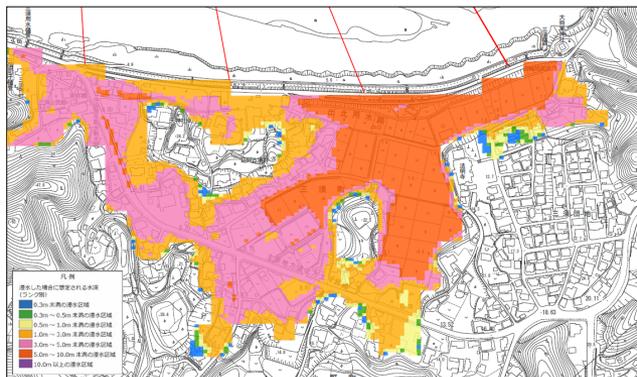
1. 避難のための情報収集

➤ テレビやインターネットからの防災情報の取得



2. リスクの把握

浸水想定区域図や土砂災害警戒区域の確認



ポイント

いざというときに**安全な避難行動をとるために何をすれば良いか**を日頃から考えてもらうようにします

- 避難するためにはどのような情報が必要で、どのような情報が提供されているのか
- いつ、どこに、どのような避難をするか

①水害に関する基礎知識

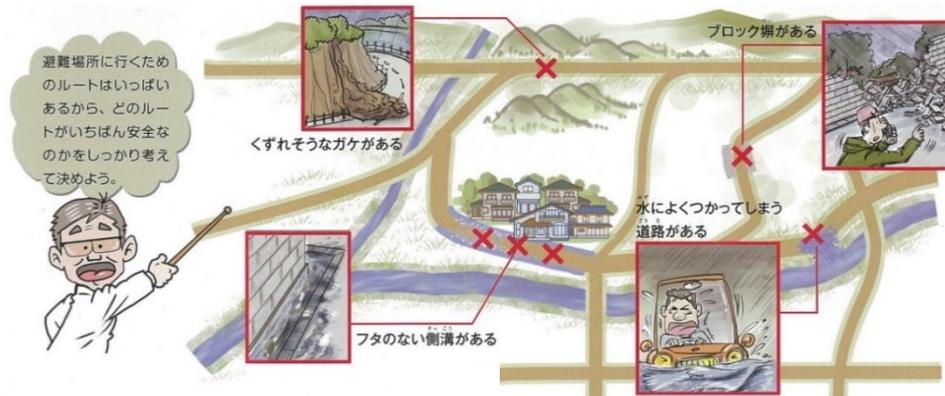
3. 避難場所、避難するルートの確認

安全ポイント

- ・避難所(ひなんじょ)
- ・病院(びょういん)、学校(がっこう)
- ・広場(ひろば)・あきち
- ・防犯灯(ぼうはんとう)
- ・防災(ぼうさい)スピーカー
- ・消火栓(しょうかせん)
- ・自動販売機(じはんき)
- ・公衆電話(でんわ)
- ・こども110番

キケンポイント

- ・ふかい溝(みぞ)
- ・ふたのないみぞ
- ・坂道(さかみち)・だんさ
- ・かけ
- ・地(じ)すべりカンバン
- ・たおれそうな堀(へい)
- ・落ちてきそうなモノ
- ・道路のくぼ地
- ・あぶない交差点
- ・マンホール

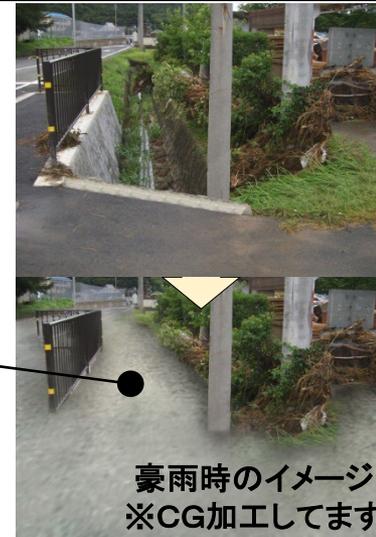


事例 避難時の被災

2009年8月9日集中豪雨
兵庫県佐用町（佐用川）における洪水

- ・ 死者行方不明者20名
- ・ 24時間雨量326.5mm

避難しようとした人たちが幅2mに満たない農業用水路上の濁流で、向こう側（用水路下流）へ少なくとも6人が流されて死亡



- ・ 避難場所や、そこに行くための**安全なルートの確認（危険な箇所を知っておくこと）**することが大切です。
- ・ 避難するときに大変な事故が起きた事例（上記事例）などを紹介しましょう。

②まち歩き【ルート決定】

- 現地で危険なポイントや気になるところを確認
いざというときに安全な避難を行うことができるように、地域の安全な場所、キケンな場所を現地で確認し、マイハザードマップに記載します。

1. まち歩きのリートを決めます！



②まち歩き 【まち歩きの進め方】

2. まち歩きを実施します！



地図に記入する係



撮影場所を地図に記入

チェックポイント	チェック内容	危険度
1	常盤路	雨水は水は溜りやすい
2	水溜り	雨水は水は溜りやすい
3	水溜り	雨水は水は溜りやすい
4	水溜り	雨水は水は溜りやすい
5	水溜り	雨水は水は溜りやすい
6	水溜り	雨水は水は溜りやすい
7	水溜り	雨水は水は溜りやすい
8	水溜り	雨水は水は溜りやすい
9	水溜り	雨水は水は溜りやすい
10	水溜り	雨水は水は溜りやすい
11	水溜り	雨水は水は溜りやすい
12	水溜り	雨水は水は溜りやすい
13	水溜り	雨水は水は溜りやすい
14	水溜り	雨水は水は溜りやすい
15	水溜り	雨水は水は溜りやすい
16	水溜り	雨水は水は溜りやすい
17	水溜り	雨水は水は溜りやすい
18	水溜り	雨水は水は溜りやすい

チェックシートに記入する係



ポールと番号札を持つ係

写真を撮影する係



気づきをチェックシートに記入

②まち歩き【現地での様子】



あの辺から・・・
土砂災害警戒区域・・・



番号ボードとポールを
表示して写真撮影



低い土地で浸水すると道路
と水路の境界が分からなく
なることを確認



想定浸水深がどのくらい
の高さか確認



地図を見ながら
場所を確認して
チェックリストへ記入



地図を見ながら
現地確認

③ マイ防災マップの作成 【会場の準備】

○ 研修会場、備品の準備

会場の机の配置は大判の地図が入るようにします。

地図は白地図を準備します。

マジックや付箋紙を準備します。



③ マイ防災マップ作成【確認作業】

○ 現地で危険なポイントや気になるところを確認

まち歩きで確認した危険箇所や気づいた点を付箋紙やシールを使って整理

	避難場所		防犯灯		消火栓		ため池		車注意
	広場		防犯スピーカー		防火水そう		急な坂道		信号のない横断歩道
	110子どもの家		川の警告灯		深いみぞ		たおれそうなもの		段差
	警察署・派出所		危険度レベル表示		がけ・地すべり注意		落下		高圧の電気
	病院		公衆電話		水につかりやすい道路		危ない交差点		キケン
	文学校		自動販売機		水につかりやすい場所		道路がせまい		その他

シールで貼付



付箋紙にまち歩きで気づきを記入します



シールも該当するところにはります



マイ防災マップ作成の様子（事例：三須地区ワークショップ）

危険

安全

気づき

付箋紙で記入

④ 成果発表

○ みんなでまとめたマイ防災マップを代表者が発表

みんなでまとめたマイ防災マップの成果を発表し、皆で情報を共有



発表を通して気づいた点や意見、追加すべき事項はメモしてマップに反映しましょう

発表の様子（事例：三須地区ワークショップ）



第1回ワークショップの成果（事例：三須地区ワークショップ）

⑤最後に

- 思いこみは危険、参加して広げていく、すぐに実施したい
第1回ワークショップを終えて（事例：三須地区ワークショップ）



それほど大きな災害は発生しないという思い込みを持たないようにしてほしい

国土交通省 延岡河川国道事務所



市も参加して、三須地区の皆さんの行動を知り、他の地区に広げていきたい

延岡市 危機管理室



今回に引き続き、第2回、第3回のワークショップを12月に実施したい

三須地区 区長

第2回ワークショップの概要（三須地区の実施例）

第2回 三須地区マイ防災マップづくり ～防災マップの確認、コミュニティタイムラインの作成～

三須地区のマイ防災マップづくりの第2回会議が行われました。第2回会議は、第1回会議の成果である防災マップを確認し、避難のタイミングを時系列で示したコミュニティタイムラインの作成を行いました。平常時から台風が接近して風が強くなる前に、どのような情報を収集して、いつ行動を起こすかについて付箋紙に書き出し、最後にコミュニティタイムラインの成果を皆で共有しました。（次回は1月27日開催予定）



平野区長

- 日 時：平成30年12月16日
 - 会 場：三須町公民館
 - 参加者：三須地区住民（約20名）
延岡河川国道事務所、延岡市
- 当日のスケジュール
 - 11:20～11:30 マイ防災マップの確認
 - 11:30～12:30 コミュニティタイムラインの説明・作成・活用

①マイ防災マップの確認 第1回マイ防災マップづくりの成果を確認

第1回で実施したマイ防災マップ作成の成果を確認して、危険箇所や避難ルート、必要な補足情報を共有した。



「地盤が低いところに浸水深を示した標識があるとうい」などの意見があった

共通のテーブルにマップを置き全員で確認

地盤が低いところは特に注意が必要であることを確認

②コミュニティタイムラインの説明 避難に関する課題を知る

国土交通省延岡河川国道事務所より災害の教訓として岡山県倉敷市真備町の事例を紹介し、避難遅れをなくすために、平常時から避難するまでの行動を示したコミュニティタイムラインの必要性を学びました。



コミュニティタイムラインについて説明



避難の課題として「真備町の事例」を紹介し、避難遅れにならないように避難のタイミングの重要性を説明し、タイムライン作成の作業へつなげた

倉敷市真備町の事例を紹介

③コミュニティタイムライン作成 避難のタイミングを考える

平常時から順に、台風通過までにとるべき行動をそれぞれ付箋紙に記入して整理していきました。



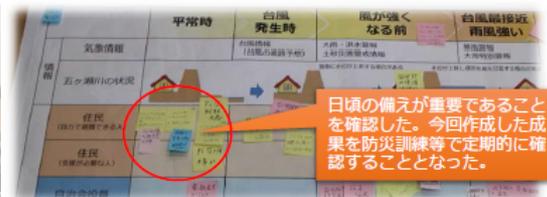
防災推進員からのアドバイス



場面ごとの行動を付箋紙で貼り付け



平常時の準備の必要性を確認



コミュニティタイムラインの成果（平常時の備えの重要性を確認）

日頃の備えが重要であることを確認した。今回作成した成果を防災訓練等で定期的に確認することとなった。

④成果 平常時の備えとして公民館に貼って防災訓練等で定期的に確認

みんなでまとめたマイ防災マップとコミュニティタイムラインの成果を共有しました。（集合写真）

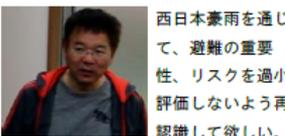


マイ防災マップを確認した結果

コミュニティタイムラインを作成した結果

⑤コメント リスクを過小評価しない、地域からの発信、三須地区を例に横展開

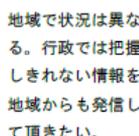
国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、防災推進委員よりコメントをいただきました。



延岡河川国道事務所



延岡市危機管理室



防災推進委員

西日本豪雨を通じて、避難の重要性、リスクを過小評価しないよう再認識して欲しい。

地域で状況は異なる。行政では把握しきれない情報を地域からも発信して頂きたい。

今回、三須地区で作成した成果を例にして、自主防災組織へ横展開をしていきたい。

①マイハザードマップの確認

○第1回マイハザードマップマップづくりの成果を確認

第1回で実施したマイハザードマップ作成の成果を確認して、危険箇所や避難ルート、必要な補足情報を共有



共通のテーブルにマップを置き全員で確認（事例：三須地区ワークショップ）

<主な意見（事例：三須地区ワークショップ）>

- ◆ 地盤が低く、浸水しやすい道路がわかるように
- ◆ 内水氾濫が起こりやすい場所や浸水履歴がわかるといい
- ◆ 浸水深を示す標識が現地に表示してあるといい
- ◆ 主要避難経路を矢印で表示させる

②コミュニティタイムラインの説明

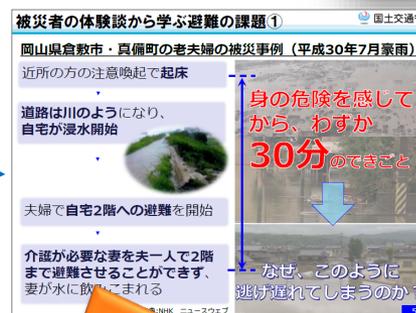
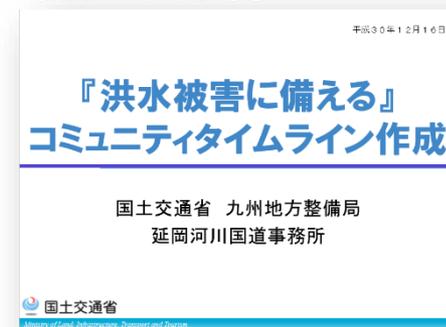
○避難に関する課題を知る

災害の教訓として岡山県倉敷市真備町の事例等を確認し、避難遅れをなくすために、平常時から避難するまでの行動を示したコミュニティタイムライン（避難のタイミング）の必要性を勉強します。

＜主な項目＞

- ◆ 災害の教訓
- ◆ 被災者の体験談から学ぶ避難の課題
- ◆ コミュニティタイムラインとは
- ◆ コミュニティタイムラインのメリット

◆第2回ワークショップ説明資料 (パワーポイント)



避難の課題として「真備町の事例」を紹介。避難遅れにならないように避難のタイミングの重要性を説明し、タイムライン作成の作業へつなげた

コミュニティタイムラインについて説明（事例：三須地区ワークショップ）

②コミュニティタイムラインの説明

○災害の教訓

過去の災害事例から、なぜコミュニティタイムライン（避難のタイミング）が必要なのかを確認します。

避難のタイミングが遅ければ、安全に避難することができない場合があります！



平成17年台風14号のときの写真
※宮崎日日新聞提供

ポイント

- 第1回で避難所までのルートを確認しましたが、それだけで大丈夫なのか、他にどのような備えがあるのかを考えてもらいます。
- その1つとして、避難のタイミングの重要性を示すため、逃げ遅れてしまった被災者の体験談などを紹介しましょう。

コラム 被災者の体験談から学ぶ避難の課題

近所の方の注意喚起で起床

道路は川ようになり、
自宅が浸水開始

夫婦で自宅2階への避難を開始

介護が必要な妻を夫一人で2階まで避難させることができず、妻が水に飲みこまれる

身の危険を感じてから、わずか
30分のできごと

なぜ、このように逃げ遅れてしまうのか？

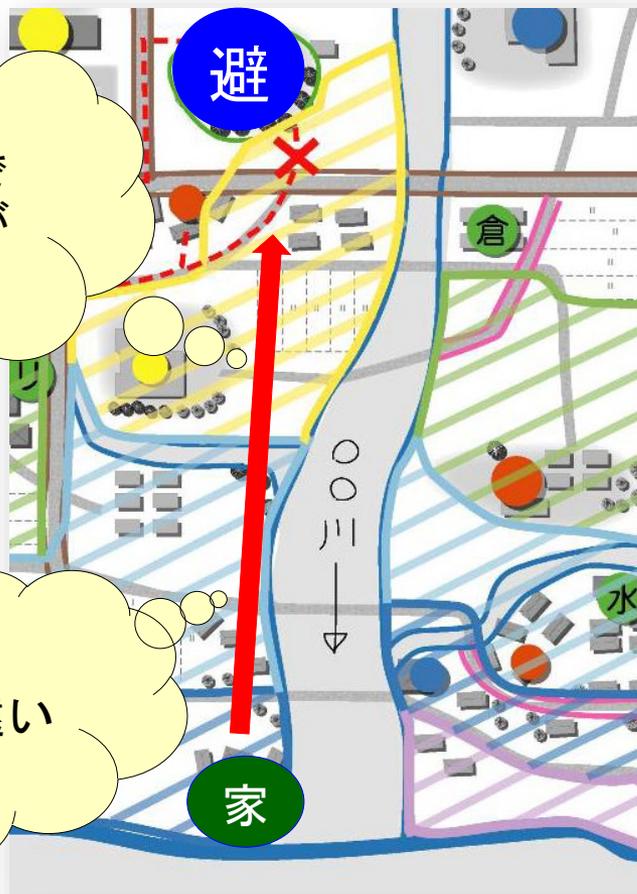
出典:NHK ニュースウェブ

②コミュニティタイムラインの説明

○コミュニティタイムラインとは

■コミュニティタイムライン

個人や地域の実情に即したタイムラインのこと



体が不自由で
移動に時間か
かかる

避難所が遠い



高齢者の一人
暮らしが多い

支援が必要



避難ルートに注
意すべきリスク
がたくさんある

② コミュニティタイムラインの説明【メリット】

○コミュニティタイムラインのメリット

⇒場面ごとに地域単位の行動が分かる

		平常時	台風発生時	風が強くなる前	台風最接近 雨風強い	台風通過
情報	気象情報					
	五ヶ瀬川の状況					
とるべき行動	住民 (自力で避難できる人)					
	住民 (支援が必要な人)					
	自治会役員					
	消防団					
	民生員					
	役所	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理施設の維持管理 ● 管理施設の浸水対策 ● 防災・避難計画作成 ● 防災啓発 (防災訓練、研修会) ● 災害対応資機材の点検 (通信機材の点検、水防資機材の点検、パトロール車の点検 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象・水文情報の収集・提供 ● ダム放流情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定緊急避難場所の確認・開設 (一部) ● 避難行動要支援者の避難支援の準備 ● 避難準備・高齢者等避難開始の発令 ● 公共施設閉鎖 ● 災害対策本部の設置 ● 指定緊急避難場所の確認・開設 ● 洪水予報 (氾濫注意情報) ● 洪水予報 (氾濫警戒情報) ● 避難勧告の発令 → 「避難指示 (緊急)」となる場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 洪水予報 (氾濫危険情報) ● 避難指示 (緊急) の発令 ● 洪水予報 (氾濫発生情報) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 被害状況の把握 ● 救護対応 ● 福祉避難所の開設 ● 応急復旧
消防・警察	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理施設の維持管理 ● 災害対応資機材の点検 (通信機材の点検、パトロール車の点検 等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集 (台風の進路予想) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象情報の収集 ● 注意・警備体制の設置 ● 水防活動 ● 災害警戒本部の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団活動者退避指示 ● 逃げ遅れた住民の救助 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人命救助 ● 行方不明者の捜索 	

「場面ごとの行動」が確認できる

避難に係る「地域の人の動き」が分かる

③コミュニティタイムライン作成

○避難のタイミングを考える

平常時から順に、台風通過までにとるべき行動をそれぞれ付箋紙に記入して整理

防災推進員からのアドバイス



場面ごとの行動を付箋紙で貼り付け



平常時の準備の必要性を確認



日頃の備えが重要であることを確認した。今回作成した成果を防災訓練等で定期的確認

コミュニティタイムライン作成の様子と成果(事例：三須地区ワークショップ)

④成果

○平常時の備えとして公民館に貼って防災訓練等で定期的に確認
 みんなでまとめたマイ防災マップとコミュニティタイムラインの成果を共有



マイ防災マップを確認した結果

コミュニティタイムラインを作成した結果

⑤最後に（コメント）

- リスクを過小評価しない、地域からの発信、三須地区を例に横展開
第2回ワークショップを終えて（事例：三須地区ワークショップ）



西日本豪雨を通じて、避難の重要性、リスクを過小評価しないよう再認識して欲しい。

国土交通省 延岡河川国道事務所



地域で状況は異なる。行政では把握しきれない情報を地域からも発信して頂きたい。

延岡市 危機管理室



今回、三須地区で作成した成果を例にして、自主防災組織へ横展開をしていきたい。

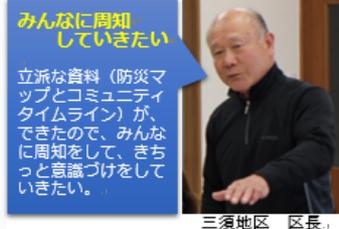
防災推進委員

第3回研修（防災マップの作成、タイムラインの作成）

第3回 三須地区マイ防災マップづくり ～全員で避難の留意点を最終確認、継続活用について共有～

三須地区のマイ防災マップづくりの第3回会議が行われました。第1回及び第2回の会議概要を広報紙としてまとめ、今後事例を公開していくことを確認しました。また、防災マップとコミュニティタイムラインの最終確認を行い、避難を行う上で留意すべき場所や避難するまでの行動や収集すべき情報について確認を行いました。

今回作成した成果は、公民館や自主防災対策本部が設置される消防本部に常設し、定期的に訓練で活用される予定です。個人用としてA3版資料（ラミネート）が延岡河川国道事務所から配付される予定です。



三須地区 区長

- 日 時：平成31年1月27日
- 会 場：三須町公民館
- 参加者：三須地区住民（約20名）、延岡河川国道事務所、延岡市

- 当日のスケジュール
- 13:00～13:10 第1回及び第2回会議のふりかえり
- 13:10～14:20 防災マップ、コミュニティタイムラインの確認
- 14:20～14:30 参加者の感想、コメント

①第1回及び第2回会議概要（広報紙）の確認 事例の公開

第1回及び第2回ワークショップの概要を確認し、三須地区の事例を今後公開することについて確認をしました。



第1回及び第2回の概要に広報紙で確認



第1回及び第2回の広報紙

②防災マップとコミュニティタイムラインの確認 避難の再確認

防災マップの確認では、避難における危険箇所の再確認を行い、内水が生じる前に避難が必要であることを再度確認した。コミュニティタイムラインの確認では、避難誘導に関する役割分担や連携について確認しました。



防災マップの確認



コミュニティタイムラインの確認

③参加者の感想 日頃からの意識づけ大切、町民全体に浸透するとよい

これまで3回の会議を通じて「気づいたこと」「良かったこと」等について感想を共有しました。

■参加者の感想

- 自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- 繰り返し見直してより良いマップにしていこうと思う。
- 災害における対策を考える時間となり良かった。
- 災害時に消防団として何をすべきか役割がみえてよかった。
- 非常に興味深かった。町内の和が広がる。
- 日頃からの意識づけがとても大切。いざという時に働けない。
- 新たな危険箇所が理解できた。良いハザードマップができた。
- 自分の家が浸水するのがはっきり理解できた。
- 地元の危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- 各自が危険と認識し、努力することになります。堤防の高さを同じにしたい。
- 南海トラフ地震で津波が起こった時のハザードマップも紐付けできる。
- 避難に対する認識の甘さを改めて感じ、今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- 地区を見て歩き、危険箇所が大変勉強になった。自主防災の大切さを改めて意識しました。
- 住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が高まった。災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- 災害時の準備、心の準備など勉強になった。この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。
- 行政の方々にはお世話になり、立派なマップができた事に感謝致したい。
- すばらしいハザードマップができてうれしい。活用できるように頑張りたい。



④成果 公民館と消防本部に大判の資料を常設、個人用はA3版で確認

みんなで確認したマイ防災マップとコミュニティタイムラインの成果を共有しました。（集合写真）



- 大判資料（公民館常設：訓練用）
 - A1のパネルにして公民館と消防本部に常設
 - 訓練で防災マップやコミュニティタイムラインを使って、定期的に確認
- A3版資料（個人用：家庭確認用）
 - 個人用として配布
 - ⇒延岡河川国道事務所より配付
 - 各家庭で平常時から確認

⑤最後に 逃げ遅れゼロにつなげる、個人個人で逃げる、自主防災の訓練で活用

国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、防災推進委員、区長よりコメントをいただきました。（区長のコメントは冒頭に示しました）



延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、防災推進委員

コミュニティタイムラインの成果

****三須地区**** コミュニティタイムライン		平常時	台風発生時	台風接近	少雨・弱風	雨風が徐々に強くなる	台風最接近 雨風強い
情報	気象情報		台風情報 (台風進路予想)	台風情報 (台風進路予想)	大雨注意報 洪水注意報 強風注意報	強風警報 大雨洪水警報 土砂災害警戒情報	暴風警報 大雨特別警報
	大瀬川の情報 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 氾濫注意情報(洪水警報) 氾濫発生に対する注意を求める段階 ■ 氾濫警戒情報(洪水警報) 氾濫発生に対する警戒を求める段階 ■ 氾濫危険情報(洪水警報) いつ氾濫してもおかしくない段階 					水位が上昇し堤防を越え氾濫する可能性がある
市から発令される情報		<ul style="list-style-type: none"> ■ 避難準備・高齢者等避難開始情報 避難の準備を呼びかけるもの。要援護者など、避難に時間を要する人は避難を開始する ■ 避難勧告発令 人的被害が発生する可能性が高まった場合に発せられる ■ 避難指示(緊急) 人的被害の危険性が非常に高まった場合に発せられる。(危険の切迫度が高い) 					低いところで浸水(内水)する。場所によっては道路と水路の区別がつかなくなるところが出てくる
							
住民 (自力で避難)		<ul style="list-style-type: none"> ● 防災訓練等の参加 ● 防災情報の確認 →マイ防災マップ →コミュニティタイムライン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集(テレビ等) ● 防災情報の確認 →CCTVカメラ画像 →防災ポータルサイト 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風対策(風で倒れそうな物は倒れないように準備) ● 避難の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難準備・避難 ● 避難完了を区長へ伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難 → 避難完了 ● 避難完了を区長へ伝達 ● 未避難者を区長へ伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所で情報を確認
	住民 (支援が必要)		<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃から定期的に確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 五ヶ瀬川防災ポータルサイト http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeokay/ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 着替え、備品の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難 → 避難完了 ● 避難完了を区長へ伝達 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所で情報を確認
とるべき行動	自治会役員	<ul style="list-style-type: none"> ● 要配慮者のリストアップ ● 防災用具の確認 ● 防災情報の確認 →マイ防災マップ →コミュニティタイムライン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集 ● 発電機の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自主防災対策部の開設、開設報告 ● 役員協議、判断 ● 自主防災対策本部 ● 避難の声かけ ● 自主避難所の開設、発電機の準備 ● 区長の要請を受けて分団長に指示 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難者リストとの照合 ● 安否確認 →未避難者の確認 ● 避難誘導の補助などを区長から要請 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難誘導(連携) ● 避難者リストとの照合 ● 安否確認 →未避難者の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続して安否確認
	消防団	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災用具(土嚢等)の確認 ● 備品(カッパ、長靴)の確認 ● 役員との連携体制の確認 ● 防災啓発(防災訓練等) ● ネットワークの構築(全団員連絡網) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集 ● (3日ぐらい前から注視) ● 消防団員への召集 ● 危険箇所の巡視、広報活動 ● 要配慮者の最新情報の確認 ● 浸水箇所(低い箇所)の監視 ● 自主避難所の開設 ● 避難誘導(自治会役員と連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 警戒体制 ● 自主防災対策部との情報のやりとり ● 避難誘導(自治会役員と連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難者リスト 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難が完了した人を避難者リストで照合し、安否確認を行う。 ● 未避難者を確認し、消防・警察へ連絡
民生委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 要配慮者のリストアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民と同じ行動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民と同じ行動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民と同じ行動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民と同じ行動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民と同じ行動
官公庁	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理施設の維持管理 ● 管理施設の浸水対策 ● 防災・避難計画作成 ● 防災啓発(防災訓練、研修会) ● 災害対応資機材の点検(通信機材の点検、水防資機材の点検、パトロール車の点検等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象・水文情報の収集・提供 ● ダム放流情報の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定緊急避難場所の確認・開設(一部) ● 避難行動要支援者の避難支援の準備 ● 公共施設閉鎖 ● 災害対策本部の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 洪水予報(氾濫注意情報) ● 避難準備・高齢者等避難開始情報の発令 ● 洪水予報(氾濫警戒情報) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難勧告の発令 ● 洪水予報(氾濫危険情報) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難指示(緊急)の発令 	
消防・警察・自衛隊	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理施設の維持管理 ● 災害対応資機材の点検(通信機材の点検、パトロール車の点検等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風情報の収集(台風の進路予想) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象情報の収集 ● 注意・警戒体制の設置 ● 水防活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象情報の収集 ● 水防活動 ● 災害警戒本部の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 気象情報の収集 ● 水防活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 消防団活動者退避指示 ● 逃げ遅れた住民の救助 	

4 防災学習指導計画（教員向け）

防災授業（社会：自然災害を防ぐ）

【水害実績を活用した授業】

—小学5年生—

授業の概要（参考事例：岡富小学校）

五ヶ瀬川を題材とした防災学習（2月28日） ～わたしたちが住んでいる延岡について考えてみよう～

五ヶ瀬川を題材とした防災学習が岡富小学校の5年生を対象に行われました。平成30年2月28日の授業では、「私たちの住んでいる延岡について考えてみよう」というテーマで、平成17年台風14号の災害の写真を見て考えたことを発表しました。平成30年3月2日の授業では、水害から延岡市を守るために、国や地域、地域住民はどのような取組みを行っているのかを写真や模型などを使って学びました。自分たちのいのちを守るためにできることを父兄の方と一緒に考えて、班毎に出てきた案を発表しました。



東坂先生 森本先生

■日時：①平成30年2月28日 11:00～11:45 ②平成30年3月2日 14:15～15:00
■対象：岡富小学校5年生（3月2日は父兄も対象） ■会場：岡富小学校体育館

①どんな災害がおきやすい？ 大きい地図、写真、映像で災害を知る



■最初に、延岡市でどんな自然災害が起こったのかを大きい地図や写真、映像を見て感想を発表しました。



写真と大きい地図で場所を確認しながら現在と水害時の違いを知る

岡富小学校付近の水害の写真を見た子供たちの感想

- 災害はいつ起こるか分からないから気をつけよう。
- 災害を知るいい学習だったと思う。延岡ではこういう災害があるということを頭に入れておかないといけないと思う。
- 自分が学校に通っている道がこんなふうになっているとは思わなかった。
- 写真を見てびっくりした。

五ヶ瀬川を題材とした防災学習（3月2日） ～自分たちのいのちを守るためにできることを考える～

①前時の振り返り・めあてをたてる 命を守るための取組を知る

■最初に、2月28日の授業を振り返り、「水害から人々の命を守るために、国や地域、地域の人々がどのような取組みを行っているのかわかる」というめあてを子供たちと共有しました。

②国や地域の取組みについて知る・考える 絵や模型を使って説明

■水害から人々の命を守るための国や地域の取組みとして、子供たちには堤防に着目した取組みについて想像し、絵にまとめてもらいました。そして、班毎に取組み案について発表した後、実際に行われている国や地域の取組みについて、模型を用いながら説明しました。また、取組みについて国からの補足説明も頂きました。



洪水を防ぐ取組を考える



スライドを使って説明



班ごとに取組み案を発表



模型



パワーポイントの絵

模型とパワーポイントの絵を使って洪水を防ぐ3つの取組を説明



取組みを模型で実演（嵩上げ）

③地域住民の取組みについて知る・考える 自分たちでできること

■地域住民の取組みについて学んだ後、自分たちの命を守るために自分たちでできることややるべきことは何か、父兄の方と一緒に考えて発表しました。そして、班毎に出てきた案を発表し、共有しました。



地域住民の取組みを紹介



父兄と一緒に取組みを考える



班の代表者が発表

④まとめ

■最後に、「水害からくらしや命を守るために、国や地域は様々な取組みを行っているとともに、自分たちができることを周りと協力しながら行うことが大事である」ということをまとめて共有しました。

導入 日本 延岡はどうだろう

- ①平成17年に水害が起きている延岡地区を見てみよう
- ②被害があったところの地図と写真をみてみよう
- ③どうして安全にくらせているのかな？
- ④国や地域では水害から人々を守るために、どのような取り組みが行われているだろう
 - 堤防があったのに、どうして被害があったのだろう
 - どんな工夫をしたのだろう
- ⑤水害から身を守るために地域の住民は何ができるのだろう
- ⑥まとめ

防災授業に用いた説明用のパワーポイントの資料（参考）

日本ではどのような災害がおこっているのだろう？

僕たち私たちの住んでいる延岡について考えてみよう！

私たちの住んでいるところは、どんな地形をしているだろう

拡大してみよう

岡富小学校 近くに五ヶ瀬川が流れている

平成17年台風14号の水害の写真【岡富小学校区】

現在

現在の写真 水害の写真

この写真番号は大雨の写真番号と同じです

① 現在

① 水害

② 現在

② 水害

③ 現在

41

42

43

44

どうして今、安全に暮らせているのかな？

次回考えてみよう！

① 現在

② 水害

③ 現在

④ 水害

堤防があつたのにどうして水害があつたのだろう？

⑤

めあて
水害から人々を守るために、国や地域、地域の住民はどのような取組を行っているのだろう？

⑥

国や地域の取組

⑦ 対策後

掘削

川の底を掘る

⑧ 対策後

嵩上げ

堤防を高くする

⑨ 対策後

引堤

堤防を広げる

⑩ 国、県、地域が連携した防災の話し合い

⑪

地域の住民の取組

⑫ 消防団の活動

13

水防訓練

消防団はどたくさんの機関が協力して水害に備えて訓練を実施しています

14

自主防災会の活動

水害のときどのように避難すればいいか地域の住民が協力しながら考えています

15

みんなで考えてみよう！

自分たちのくらしや命を自然災害から守るために、今どんなことができるのだろう？

16

まとめ

水害からくらしや命を守るために、自分たちができることを周りと協力しながら取組を行っている。

※パワーポイントは別ファイル

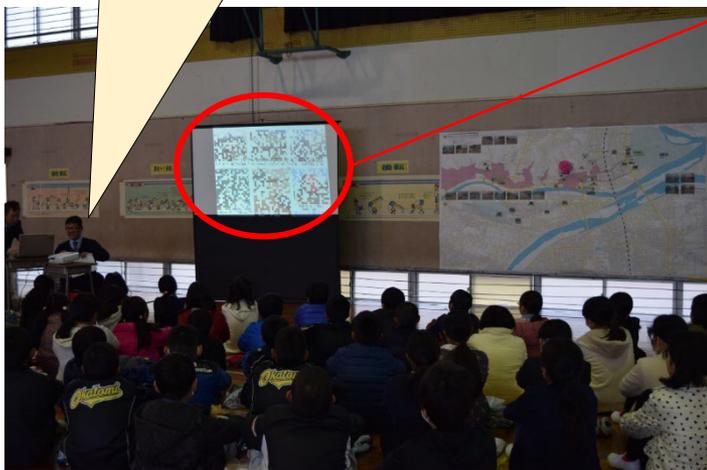
①日本ではどのような災害がおこっているのだろう？

○スライドの活用

日本で起こった津波、地震、洪水、竜巻など様々な被害について写真を使って説明するのに活用できます。

日本ではどのような災害がおこっているのだろう？

日本ではどんな災害が起こっていますか？



平成7年1月 地震（兵庫県）



平成23年3月 津波（宮城県）



平成23年1月 噴火（宮崎県）



平成24年7月 土石流（熊本県）



平成24年7月 水害（福岡県）



平成18年9月 竜巻（宮崎県延岡市）

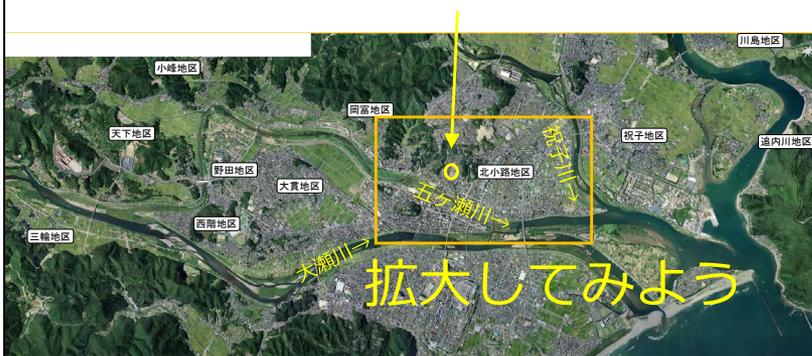
- ・津波、地震、洪水、竜巻など様々な被害が起こっていることを紹介します。
- ・年に北部九州豪雨で朝倉市をはじめて甚大な被害が発生しました。

②延岡について考えてみよう！

○航空写真の活用

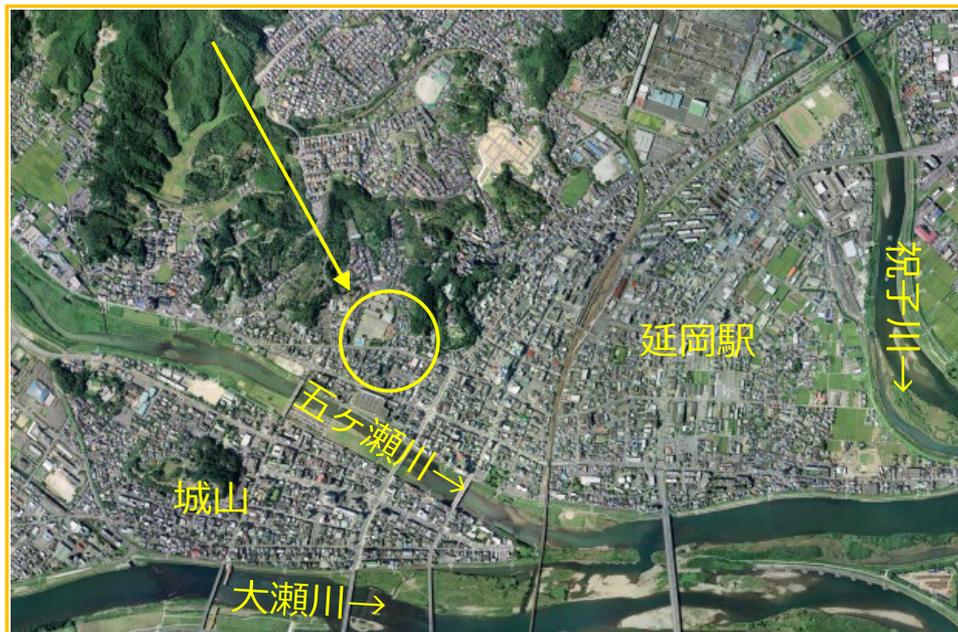
航空写真を活用して私たちの住んでいるところがどんな地形をしているのかを確認します。

私たちの住んでいるところは、
どんな地形をしているだろう



岡富小学校

近くに五ヶ瀬川が流れている



・自分たちが住んでいるところを航空写真で確認できます。自分たちの小学校の位置を入れてアレンジして使用できます。

平成17年に水害が起きている延岡地区を見てみよう

○水害写真集とマップの活用
ほとんどの子供たちは身近な場所で水害があったことを知りません。水害マップでは浸水した範囲を、現在と水害時を対比した写真ではどの程度の水害が起こったかを知ることができます。



写真と大きい地図で場所を確認しながら現在と水害時の違いを知る

岡富小学校付近の水害の写真を見た子供たちの感想

- 災害はいつ起こるか分からないから気をつけよう。
- 災害を知るいい学習だったと思う。延岡ではこういう災害があるということを頭にいれておかないといけないと思う。
- 自分が学校に通っている道がこんなふうになっているとは思わなかった。
- 写真を見てびっくりした。



水害写真集の活用
(P8参照)

水害マップの活用 (P9参照)

・遠い地区で起こった災害は他人事として見てしまいがちですが、身近な地域で起こった災害は、自分のものとして考えます。自分が知っている場所が話しをすると子供たちもイメージがしやすくなります。

水害写真集の活用

◆現在と水害時を比較した写真

現在と水害時を対比して説明します子供たちは、自分たちが知っている場所で川の堤防を超えたことや腰のあたりまで水がきた写真を確認することができます。



水害のときはどうなる？



現在の写真

平成30年1月16日に撮影した写真です

水害の写真

平成17年9月の台風14号のときの写真です



この写真番号は大判の写真番号と同じです

ポイント

現在の写真と水害の写真を対比して説明します。子供たちは、自分たちが知っている場所で川の堤防を超えたことや腰のあたりまで水がきた写真を見て、どの程度の洪水だったかを認識することができます。

平成17年の水害を示した大判のマップの活用

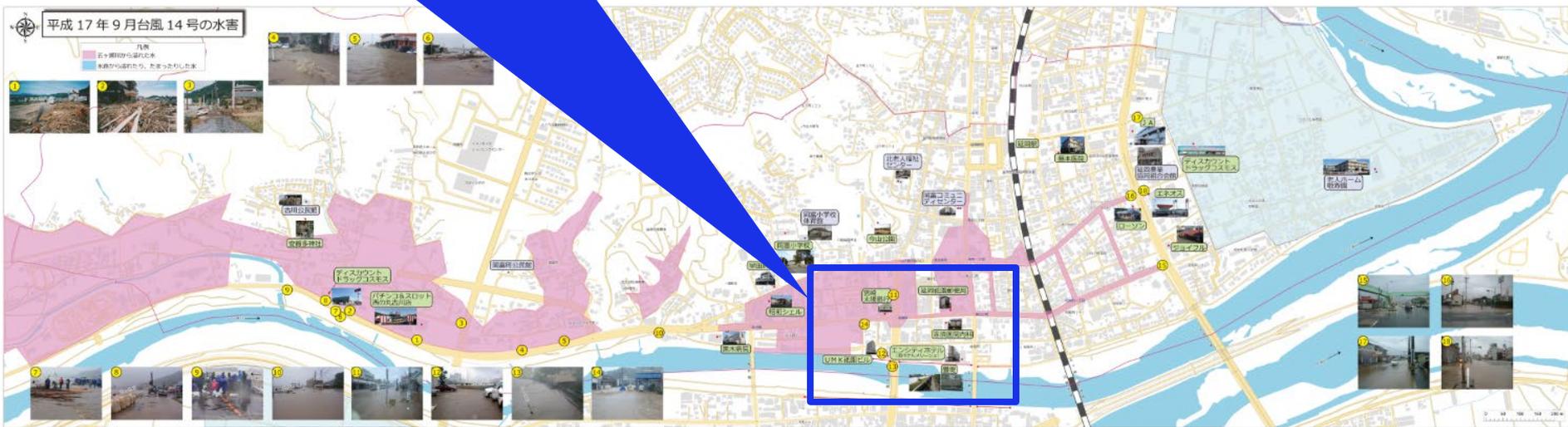
◆平成17年の水害を示した大判マップ



(活用例)
 ・体育館の壁にはりつけて使用
 ・床に置いて使用

この場所は知っていますか？
 ここは平成17年の水害で浸水したところです。。

子供たちが現地をイメージできる場所の写真



ポイント

子供たちが知っている現地の写真があれば、どこでどのような水害があったかを理解できます。

○スライドの活用

ほとんどの子供たちは身近な場所で水害があったことを知らない（聞いたことはあるが実際に見たことがない）ので、水害時の写真を見せて、命を守るために自分たちで何をすべきかを考えるきっかけとします。



※宮崎日日新聞提供

・子供たちは身近な場所で水害があったことを知らない（聞いたことはあるが実際に見たことがない）ので、水害時の写真を見せることで自分たちの地域で起こり得る被害をイメージすることができ、命を守るために自分たちで何をすべきかを考えるきっかけをつくることができます。

どうして安全に暮らせているのかな

○水害写真の活用

水害写真を活用して、水害から人々を守るための国や地域の取組につなげます。



めあて
水害から人々を守るために、
国や地域、地域の住民はどのような取組を行っているのだろう？

洪水を防ぐ仕組み (P13~16)



水害から人々を守るための取組 (P17~21)

国、県、地域が連携した防災の話し合い



自主防災会の活動



・水害写真から洪水を防ぐしくみや水害から人々を守るための国や地域の取組につなげることができます。模型を使って洪水を防ぐ仕組みを教えたり、実際に延岡市で実施されている取組を紹介できます。

○自ら洪水を防ぐ仕組みを考える

水害から人々を守るための国や地域の取組につなげます。

課題設定



水害

堤防があったのにどうして水害にあったのだろう？

洪水を防ぐ仕組みについて自ら考えてみる



発表



グループで作成

ポイント

・実際に起こった水害写真から課題を設定し、洪水を防ぐしくみについて自ら考えてもらいます。模型や水害写真などにより子供たちに被害と対策のイメージを正しく伝えることができます。

国や地域の取組（洪水を防ぐ仕組み）

◆掘削、嵩上げ、引堤の模型セット

洪水を防ぐ仕組みを模型とスライドを使って説明します。

⇒ 3つの洪水対策の模型で説明

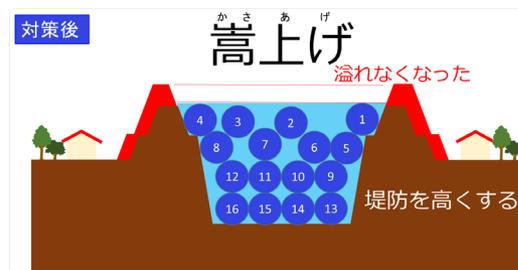
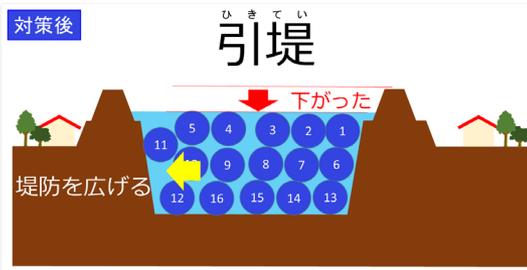
⇒ パワーポイントで補足説明



パワーポイント



模型

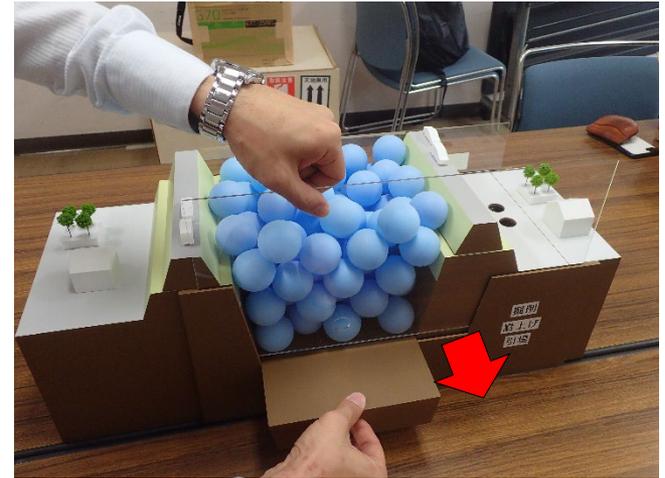
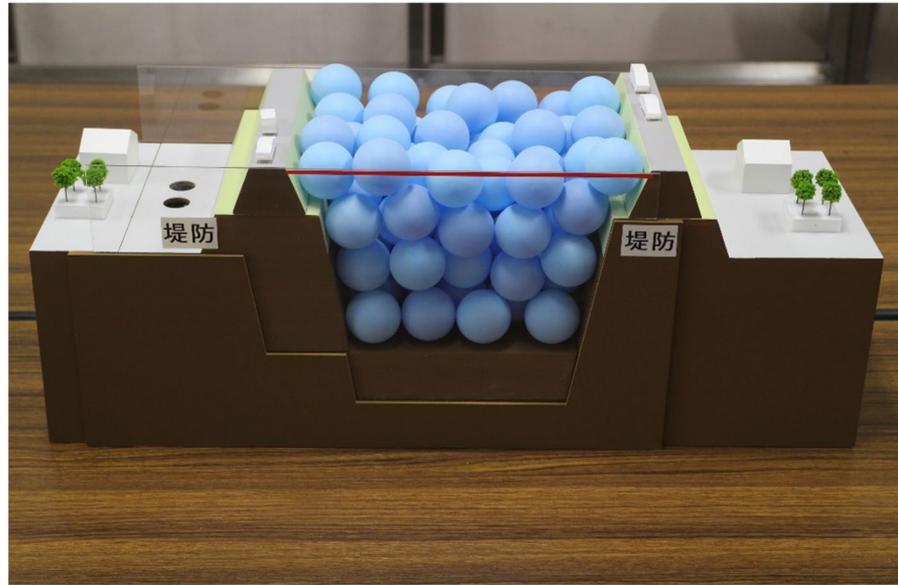


※模型の使い方はP14～16

ポイント

・引堤、掘削によって水位が下がったり、嵩上げによって堤防が高くなり溢れなくなるところを立体的に見せることで、洪水を防ぐ仕組みに対して分かりやすく説明することができます。

模型の使い方（掘削）



底の板を外します

掘削前

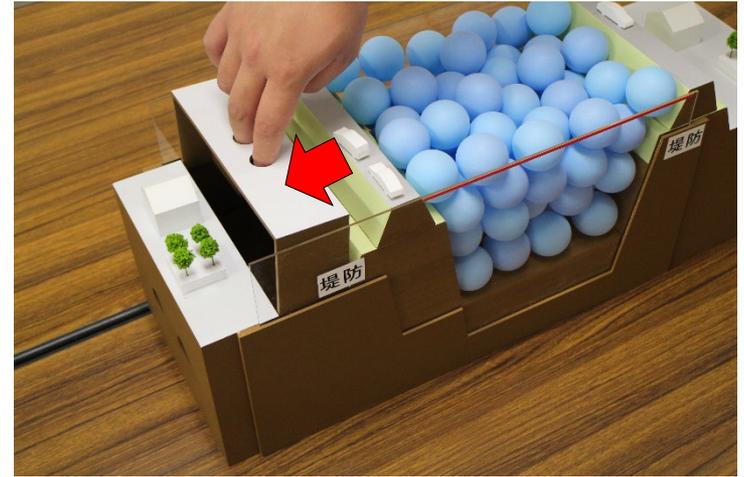
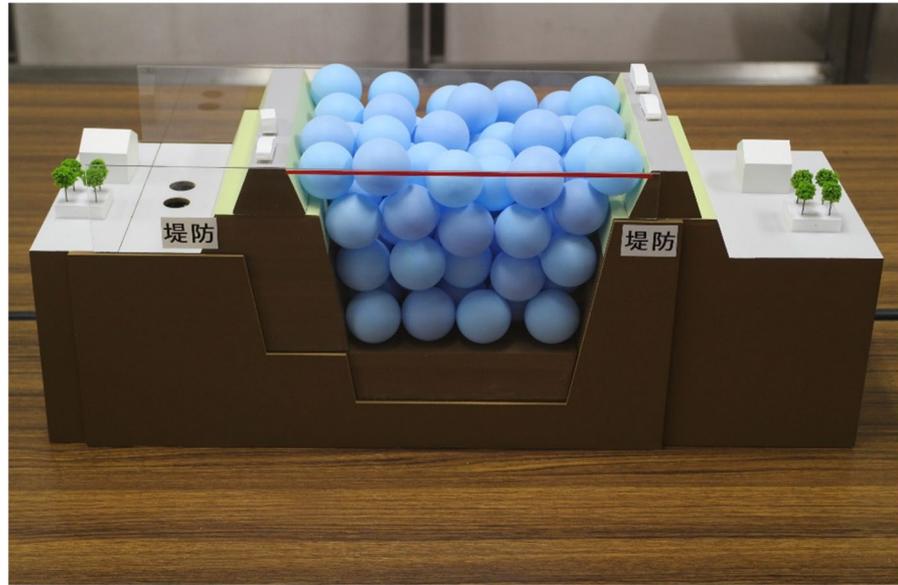


掘削後



堤防のライン（赤のライン）で、掘削前から水位が下がったことを示すことができます。

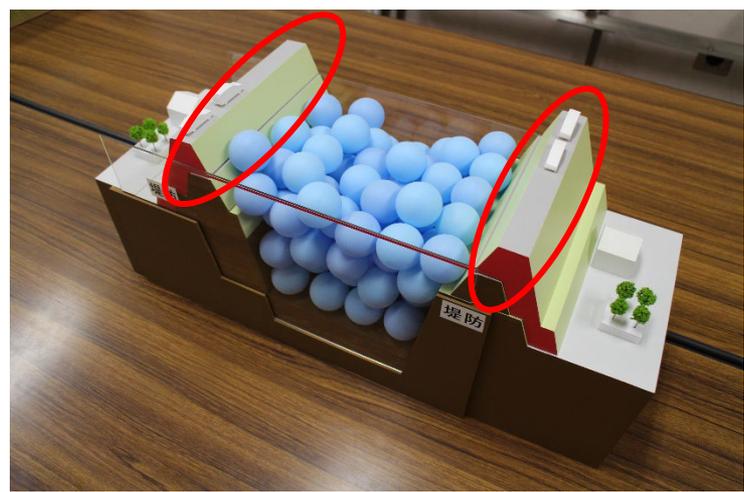
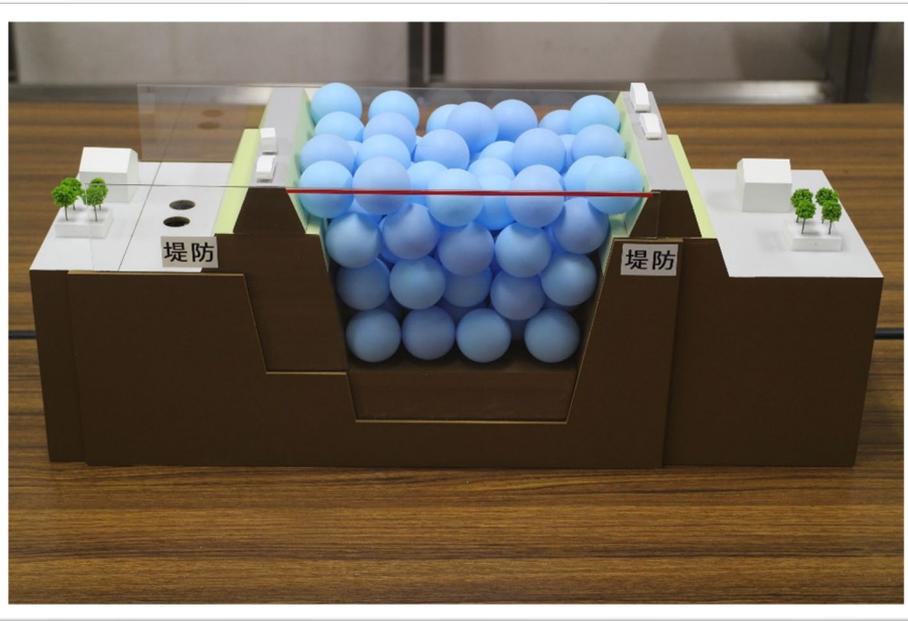
模型の使い方 (引堤)



スライドします



模型の使い方（嵩上げ）



嵩上げ部分を積みます

堤防を嵩上げした部分を積むことで、堤防からあふれないことを説明できる。



○スライドの活用
国、県、地域が連携した取組を紹介
できます。

国、県、地域が連携した防災の話し合い



水害のときにどのように連携すればいいか
防災に関わるたくさんの機関で考えています



要配慮者避難確保検討のための情報提供



小学校向けの防災学習の支援



住民主体の防災マップづくり・タイムライン作成の支援



防災に関する基礎知識習得の支援



村上先生(宮崎大学) 杉尾先生(宮崎大学) 延岡河川国道事務所長 宮崎地方気象台長 延岡土木事務所長
西白杵支庁長 延岡市長 高千穂町副町長 日之影町長 五ヶ瀬町長



関係機関と連携した防災行動の検討

ポイント

・最近の国の取組について紹介ができます。タイムラインとは、防災行動計画といわれるもので、いつ、どのような行動をとるかを整理したものです。減災についての話し合いでは国、県、市が連携します。

○スライドの活用

延岡市で実際に行っている自主防災会、水防訓練、消防団の取組を紹介することができます。

自主防災会の活動

防災マップをつくっています



水害のときにどのように避難すればいいか地域の住民が協力しながら考えています

※地域住民主体による防災マップづくり (P19~21)

ポイント

・延岡市では、自主防災会や消防団の活動以外にも、地域住民主体による防災マップづくりなどさまざまな取組が行われています。

水防訓練

土のうを積み訓練をしています



消防団などたくさんの機関が協力して水害に備えて訓練を実施しています

消防団の活動

五ヶ瀬川の水が溢れないように土のうを積んでいます



平成17年の水害のときも人々を水害から守るために消防団が活躍しました

第1回 三須地区マイ防災マップづくり ～まち歩きで危険箇所を確認、マイ防災マップの作成～

三須地区のマイ防災マップづくりの第1回会議が行われました。第1回会議は、水害に関する基礎知識を学び、実際に現場に出て避難ルートを歩き、危険なポイントや気になるところを確認しました。約1時間かけて現地を回りましたが、雨が急に降り出すなど、本番さながらのまち歩きとなりました。まち歩きで確認したポイントはマイ防災マップとして作成し、最後に成果を皆で共有しました。（次回は12月16日の予定）

■日 時：平成30年12月2日
 ■会 場：三須町公民館
 ■参加者：三須地区住民（約20名）
 延岡河川国道事務所、延岡市

■当日のスケジュール
 13:00～13:30 水害に関する基礎知識
 13:30～15:00 まち歩き
 15:00～16:00 マイ防災マップ作成



三須地区 区長

①水害に関する基礎知識 延岡河川国道事務所から情報提供

水害に関する基礎知識について国土交通省延岡河川国道事務所より平成17年の水害等の情報が提供されました。



説明の様子（全景）



延岡河川国道事務所の説明

②まち歩き 現地で危険なポイントや気になるところを確認

まち歩きによってがけ崩れや深い溝があって浸水すると道路と水路の区別がつかなくなり危険なところなど、二手に分かれて1時間かけて現地を確認しました。確認した箇所は写真を撮ってメモをとりました。



土砂災害の危険箇所



土砂災害警戒区域を確認



危険箇所の写真撮影、記入



深い溝を確認



危険箇所の確認



標高の確認

③マイ防災マップ作成 まち歩きで確認した危険箇所や気づきを整理

まち歩きで確認した危険箇所や気づいた点を付箋紙やシールを使って整理しました。



危険箇所の確認



付箋紙の記入



危険箇所シールの貼り付け



マイ防災マップ作成の様子（全景）



付箋紙の貼り付け



付箋紙の貼り付け



危険箇所シールの貼り付け



危険箇所の確認

④成果発表 みんなでまとめたマイ防災マップを代表者が発表

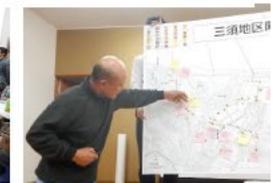
みんなで作ったマイ防災マップの成果を発表し、皆で情報を共有しました。



1班の発表



発表の様子



2班の発表

⑤最後に 思いこみは危険、参加して広げていく、すぐに実施したい

最後に国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、区長よりコメントをいただきました。



延岡河川国道事務所

それほど大きな災害は発生しないという思い込みを持たないようにしてほしい



延岡市危機管理室

市も参加して、三須地区の皆さんの行動を知り、他の地区に広げていきたい



三須地区 区長

今回に引き続き、第2回、第3回のワークショップを12月に実施したい

地域の取組（避難のタイミングを検討、タイムラインの作成）

第2回 三須地区マイ防災マップづくり ～防災マップの確認、コミュニティタイムラインの作成～

三須地区のマイ防災マップづくりの第2回会議が行われました。第2回会議は、第1回会議の成果である防災マップを確認し、避難のタイミングを時系列で示したコミュニティタイムラインの作成を行いました。平常時から台風が接近して風が強くなる前に、どのような情報を収集して、いつ行動を起こすかについて付箋紙に書き出し、最後にコミュニティタイムラインの成果を皆で共有しました。（次回は1月27日開催予定）。

■日 時：平成30年12月16日

■会 場：三須町公民館

■参加者：三須地区住民（約20名）、
延岡河川国道事務所、延岡市

■当日のスケジュール

11:20～11:30 マイ防災マップの確認

11:30～12:30 コミュニティタイムラインの説明・作成・活用



三須地区 区長

①マイ防災マップの確認 第1回マイ防災マップづくりの成果を確認

第1回で実施したマイ防災マップ作成の成果を確認して、危険箇所や避難ルート、必要な補足情報を共有した。



「地盤が低いところに浸水深を示した標識があるとうい」などの意見があった

共通のテーブルにマップを置き全員で確認

地盤が低いところは特に注意が必要であることを確認

②コミュニティタイムラインの説明 避難に関する課題を知る

国土交通省延岡河川国道事務所より災害の教訓として岡山県倉敷市真備町の事例を紹介し、避難遅れをなくすために、平常時から避難するまでの行動を示したコミュニティタイムラインの必要性を学びました。



避難の課題として「真備町の事例」を紹介。避難遅れにならないように避難のタイミングの重要性を説明し、タイムライン作成の作業へつなげた

コミュニティタイムラインについて説明

倉敷市真備町の事例を紹介

③コミュニティタイムライン作成 避難のタイミングを考える

平常時から順に、台風通過までにとるべき行動をそれぞれ付箋紙に記入して整理していきました。



防災推進員からのアドバイス



場面ごとの行動を付箋紙で貼り付け



平常時の準備の必要性を確認



日頃の備えが重要であることを確認した。今回作成した成果を防災訓練等で定期的に確認することとなった。

コミュニティタイムラインの成果（平常時の備えの重要性を確認）

④成果 平常時の備えとして公民館に貼って防災訓練等で定期的に確認

みんなでまとめたマイ防災マップとコミュニティタイムラインの成果を共有しました。（集合写真）



マイ防災マップを確認した結果

コミュニティタイムラインを作成した結果

⑤コメント リスクを過小評価しない、地域からの発信、三須地区を例に横展開

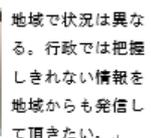
国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、防災推進委員よりコメントをいただきました。



延岡河川国道事務所



延岡市危機管理室



防災推進委員

地域で状況は異なる。行政では把握しきれない情報を地域からも発信して頂きたい。

今回、三須地区で作成した成果を例にして、自主防災組織へ横展開をしていきたい。

地域の取組（継続活用について共有）

第3回 三須地区マイ防災マップづくり ～全員で避難の留意点を最終確認、継続活用について共有～

三須地区のマイ防災マップづくりの第3回会議が行われました。第1回及び第2回の会議概要を広報紙としてまとめ、今後事例を公開していくことを確認しました。また、防災マップとコミュニティタイムラインの最終確認を行い、避難を行う上で留意すべき場所や避難するまでの行動や収集すべき情報について確認を行いました。

今回作成した成果は、公民館や自主防災対策本部が設置される消防本部に常設し、定期的に訓練で活用される予定です。個人用としてA3版資料（ラミネート）が延岡河川国道事務所から配付される予定です。

みんなに周知
していきたい

立派な資料（防災マップとコミュニティタイムライン）ができたので、みんなに周知をして、きちんと意識づけしていきたい。



三須地区 区長

- 日 時：平成31年1月27日
- 会 場：三須町公民館
- 参加者：三須地区住民（約20名）
延岡河川国道事務所、延岡市

- 当日のスケジュール
- 13:00～13:10 第1回及び第2回会議のふりかえり
- 13:10～14:20 防災マップ、コミュニティタイムラインの確認
- 14:20～14:30 参加者の感想、コメント

①第1回及び第2回会議概要（広報紙）の確認 事例の公開

第1回及び第2回ワークショップの概要を確認し、三須地区の事例を今後公開することについて確認をしました。



第1回及び第2回の概要に広報紙で確認



第1回及び第2回の広報紙

②防災マップとコミュニティタイムラインの確認 避難の再確認

防災マップの確認では、避難における危険箇所の再確認を行い、内水が生じる前に避難が必要であることを再度確認した。コミュニティタイムラインの確認では、避難誘導に関する役割分担や連携について確認しました。



防災マップの確認



コミュニティタイムラインの確認

③参加者の感想 日頃からの意識づけ大切、町民全体に浸透するとよい

これまで3回の会議を通じて「気づいたこと」「良かったこと」等について感想を共有しました。

■参加者の感想

- ・自治会役員との連携も明確化されて動きやすくなる。
- ・繰り返し見直してより良いマップにしていこうと思う。
- ・災害における対策を考える時間となり良かった。
- ・災害時に消防団として何をすべきか役割がみえてよかった。
- ・非常に興味深かった。町内の和が広がる。
- ・日頃から意識づけがとても大切。いざという時に動けない。
- ・新たな危険箇所が理解できた。良いハザードマップができた。
- ・自分の家が浸水するのははっきり理解できた。
- ・地元の危険箇所の発見と災害に対する再認識を持つことができた。
- ・各自が危険と認識し、努力することになります。堤防の高さを同じにして欲しい。
- ・南海トラフ地震で津波が起こった時のハザードマップも紐付けできる。
- ・避難に対する認識の甘さを改めて感じ、今後の災害時に早めに避難することを心がけようと思う。
- ・地区を見て歩き、危険箇所が大変勉強になった。自主防災の大切さを改めて意識しました。
- ・住み慣れた地区だが危険区域が多くあり関心が持てた。災害が起きる前に判断が出来るようにしたい。
- ・災害時の準備、心の準備など勉強になった。この事を町民全体に浸透していけば良いと思う。
- ・行政の方々にはお世話になり、立派なマップができた事に感謝致したい。
- ・すばらしいハザードマップができてうれしい。活用できるように頑張りたい。



④成果 公民館と消防本部に大判の資料を常設、個人用はA3版で確認

みんなで確認したマイ防災マップとコミュニティタイムラインの成果を共有しました。（集合写真）



継続的に活用

■大判資料（公民館常設：訓練用）

- ・A1のパネルにして公民館と消防本部に常設
- ・訓練で防災マップやコミュニティタイムラインを使って、定期的に確認

■A3版資料（個人用：家庭確認用）

- ・個人用として配布
- ⇒延岡河川国道事務所より配付
- ・各家庭で平常時から確認

⑤最後に 逃げ遅れゼロにつなげる、個人個人で逃げる、自主防災の訓練で活用

国土交通省延岡河川国道事務所、延岡市危機管理室、防災推進委員、区長よりコメントをいただきました。（区長のコメントは冒頭に示しました）



延岡河川国道事務所



延岡市危機管理室



防災推進委員

マップと行動計画が逃げ遅れゼロにつながるかと考えている。自分の身は自分で守る避難行動を家族に伝えてほしい。

台風の際は消防団の方々が本当に厳しい状況になる。個人個人で、まず逃げたいことをお願いしたい。

作ったものが絵に描いた餅にならないように、毎年の自主防災の訓練のタイムラインに沿って実際にやりましょう。

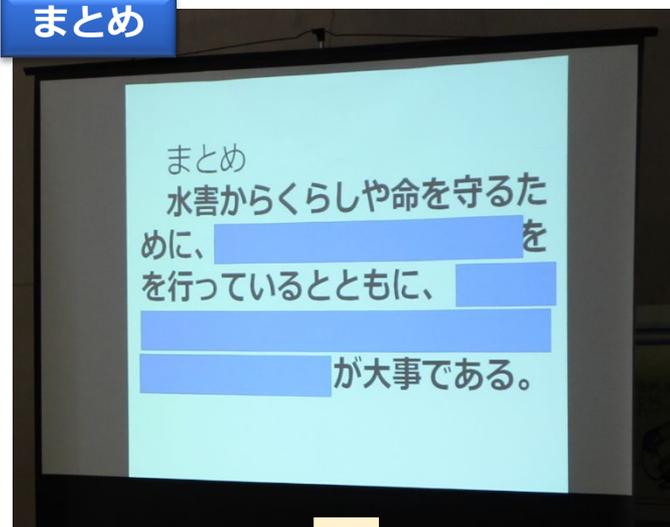
水害から暮らしや命を守るために何ができる

○スライドの活用
最後に水害から暮らしや命を守るために何ができるかを発表して意見を共有します。

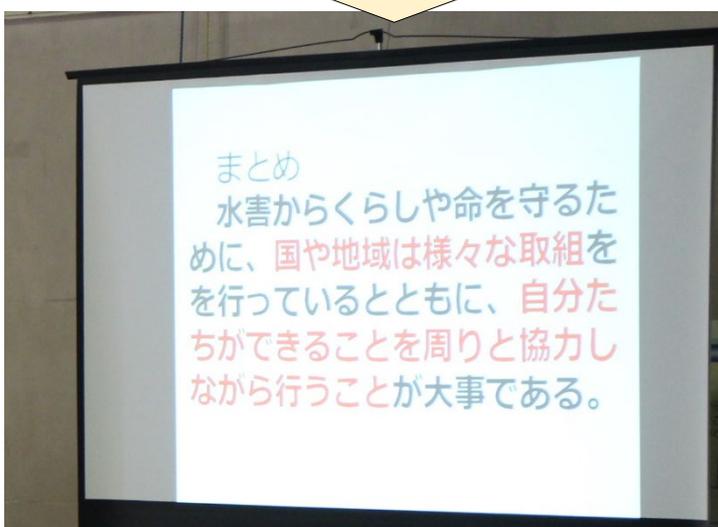


発表

まとめ



課題設定



・国や地域の取組を参考に水害から命を守るために何ができるかを考えてもらいます。父兄参観日と同日開催が可能であれば、父兄も参加してもらおうことで、家族で水害について考えるきっかけとなります。

社会の授業 『自然災害を防ぐ』

【想定最大規模降雨時の洪水を対象にした授業】

(マイハザードマップ作成)

ー小学5年生ー

防災マップ作成の流れ

事前準備

① まち歩き探検ルート決定

② スケジュール作成

③ まち歩きの安全確保

防災授業

① 水害の怖さを知る

- ・延岡市で起こった過去の水害の写真や映像を見る
- ・想定最大規模の雨が降った場合の水害マップを見る

② 自分たちでできることを考える

- ・グループワーク

③ まち歩き探検

- ・現地で危険箇所の確認を行う

④ マイ防災マップづくり

- ・まち歩き探検での気づきをマップに整理する

⑤ グループごとに発表

① 水害の怖さを知る



② 自分たちでできることを考える

水害のときにどんなことが困るかな		日頃からどんなことが準備できるかな	
避難するところがわからない	水が深くなって歩けない	避難所を確認しておく	避難訓練をする
どこに逃げれば安全なのかわからない	強い風で木が倒れたりする	むかしの水害があったところを知っておく	家族でよくそくごとを決めておく
夜だと暗くて道が見えない			

③ まち歩き探検



④ マイ防災マップづくり



⑤ グループごとに発表



事前準備

◆ 地図の入手

防災マップを作成するためのベース図を以下の要領で入手します。

①延岡市のホームページで図面を選択

<http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp/display.php?cont=160518162115>

延岡市 Nobeoka 延岡市のホームページ

延岡市都市計画基本図のダウンロードについて

掲載日:2016年5月18日

延岡市の地形図がダウンロードできます。

※下記のリンク先から区割図を開き必要な図面番号をクリックしてください。

地図の種類	ファイル形式	用紙サイズ	作成年月日	リンク先
10,000分の1地形図 (旧延岡区域内)	PDFファイル	A0サイズ	図面番号7、9、10、12 平成27年	
			図面番号上記以外 昭和63年	
2,500分の1地形図 (旧延岡区域内)	PDFファイル	A0サイズ	図面番号1~60 平成27年	
			図面番号61~85 平成8年	

※測量法に係る申請について

- これらの図面を利用して新たな地図を作成するなど、図面の用法による申請が必要な場合があります。
- 測量法に係る申請の詳細については、都市計画課までご連絡下さい。

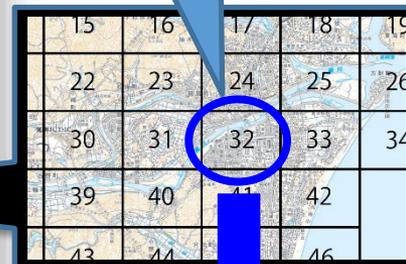
窓口での地図販売について

※都市計画課では窓口での地図販売も行っていますが、販売内容については下記のリンクより「地図販売のご案内」のページをご覧ください

・「[地図販売のご案内](#)」



番号をクリックする



ポイント

各家屋や避難路となる道路、目印となる建物等を判別できる縮尺1/1000~1/2500程度の作業図面を用意します。

① まち歩き探検ルート決定

◆ まち歩き探検ルートの決定

まち歩き探検でどのような道を通るかあらかじめ決めておきます。

1コマ45分とすると

まち歩き	20分
防災マップ作成	20分
発表	5分

※時間配分は目安です



例)
学校の周りを避難
ルートと想定して
まち歩きを行う

実際は各自の家から避難することが想定されますが、それを学校の授業で実施することはできないので、学校の周りを避難ルートとして想定しまち歩きを実施します。ここで学んだことを家に帰って家族で考え実践してもらうようにします。

まち歩き探検の時間は、教室にもどって防災マップの作成を行う時間を考慮すると20分程度だと考えられますが、時間配分は目安なので、各学校の授業方針に従って設定します。

水害の写真や映像をみて感じたことを思い出しながら避難する際の危険箇所を確認していきます。これにより**児童が家に帰って自分の家から避難する場合の行動を考えることができます**。これを家族で考えることによって、さらに実践的な避難になることが期待されます。

② スケジュールの作成

◆ 防災マップの作成は、**2回の防災授業**を実施して作成します

	内容	イメージ																
<h3>第1回 授業</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ①水害の怖さを知る ②自分たちでできることを考える ③「まち歩き探検」の準備 	 <table border="1" data-bbox="1483 368 1856 665"> <thead> <tr> <th colspan="2">水害のときにどんなことが困るかな</th> <th colspan="2">日頃からどんなことが準備できるかな</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>避難するところがわからない</td> <td>水が深くて歩けない</td> <td>避難所を確認しておく</td> <td>避難訓練をする</td> </tr> <tr> <td>どこに逃げれば安全なのかわからない</td> <td>強い風で木が倒れたりする</td> <td>むかしの水害があったところを知っておく</td> <td>家族でやくそくことを決めておく</td> </tr> <tr> <td>夜だと暗くて遠が良く見えない</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	水害のときにどんなことが困るかな		日頃からどんなことが準備できるかな		避難するところがわからない	水が深くて歩けない	避難所を確認しておく	避難訓練をする	どこに逃げれば安全なのかわからない	強い風で木が倒れたりする	むかしの水害があったところを知っておく	家族でやくそくことを決めておく	夜だと暗くて遠が良く見えない			
水害のときにどんなことが困るかな		日頃からどんなことが準備できるかな																
避難するところがわからない	水が深くて歩けない	避難所を確認しておく	避難訓練をする															
どこに逃げれば安全なのかわからない	強い風で木が倒れたりする	むかしの水害があったところを知っておく	家族でやくそくことを決めておく															
夜だと暗くて遠が良く見えない																		
<h3>第2回 授業</h3>	<ul style="list-style-type: none"> ④まち歩き探検 ⑤防災マップをつくる ⑥グループごとに発表する 	 <div data-bbox="1263 986 1553 1153"> <p>成果の発表</p>  </div> 																

まち歩き探検は水害の怖さを知った上で、自分たちができることを思い出しながら行います。そのため、**第1回と第2回はあまり時間を空けずに実施することが望ましいです。**

- ◆ まち歩きにおける児童の安全確保のため外部への協力として①保護者や②自治会等が考えられます。

① 保護者への協力

児童と一緒に避難を考えるきっかけとして現地での誘導につて保護者の協力を依頼する。



家族で避難を考えるきっかけに

② 自治会や地域の自主防災組織、消防団への協力

実際に避難誘導を行っている自治会や地域の自主防災組織、消防団へ協力を依頼する。



地域の活動を知るきっかけに

③ 教員の応援

外部からの協力が困難な場合は、教員の応援を調整する。

- 安全のため、可能であれば**保護者の方に現地での誘導**(交通安全上注意が必要なところ等)など協力を得る。**家に帰って家族で避難について考えるきっかけ**となることが期待できます。
- 保護者の参加が難しい場合には、**自治会や地域の自主防災組織、消防団の協力**を得ることも考えられます。**まち歩きをしながら、消防団など地域を守る活動を行っている人の実際の話**を聞くことで、より防災意識が高まります。
- 外部の方からの協力が困難な場合、**教員の応援などの調整を行って安全に配慮**します。

防災授業

①水害の怖さを知る

- 3つのツールを使用して、水害の怖さを学びます。(P9~11参照)

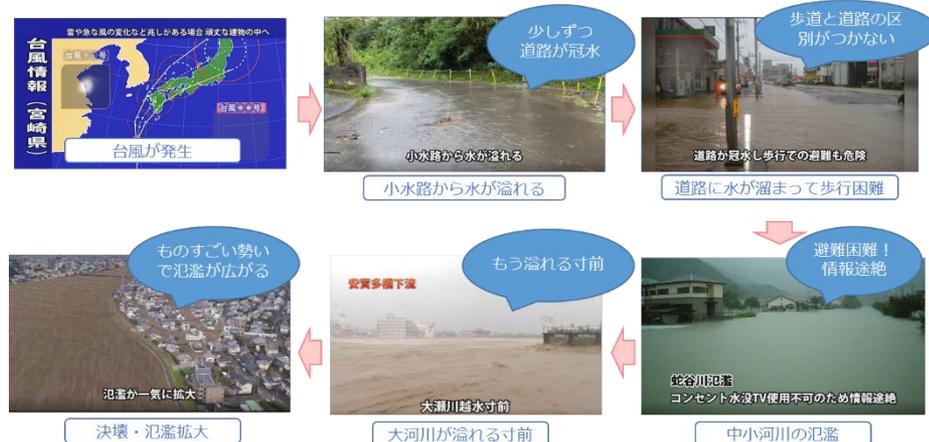
A 水害写真集・映像の活用

現在と水害時を対比した資料です。



B 水害イメージ映像 (被害映像ショートムービー)

台風が発生し大雨により川が増水し決壊して氾濫する状況をイメージできるようにした映像です。関係機関の対応も見ることができます。



C 想定最大規模降雨時の水害マップ

今後発生しうる想定最大規模降雨時の水害を図化したマップです。



ポイント

- 3つのツールは授業の内容に合わせて自由に使えます。

● わたしたちのまちで過去にどんな水害があったの？

これまでに、水害により地域でどのような被害があったのかを水害写真集を見て学習します。



みんなの良く知っている場所が、こんなに水に浸かってしまいました。



過去に起こった災害について、おじいちゃんやおばあちゃんに聞いてみてください。



現在と水害時の写真で確認



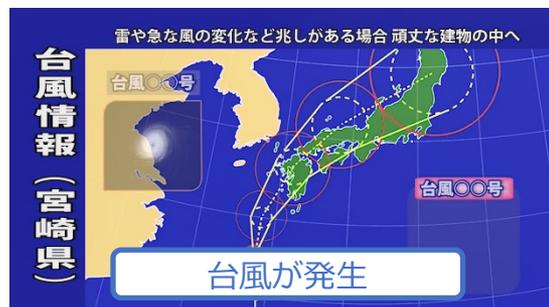
平成17年の水害の映像で確認

- 実際に地域で起きた水害の写真や映像を見ることで、**水害のリアリティ**を感じてもらうことができます。
- その上で、**水害時に安全なところ、キケンなところ**をイメージしてもらいます。
- 過去の災害について家族に聞いてみることで、**授業の内容を家族や地域で共有するきっかけ**になります。

①水害の怖さを知る【B 被害映像ムービーを活用】

● 水害が起きると、わたしたちのまちはどうなるの？

台風が発生し、大雨や河川の氾濫が起きるまで、どのようなことが起きるのでしょうか。被害映像ショートムービーを使って、洪水発生時の様子を学習します。



決壊・氾濫拡大

大河川が溢れる寸前

中小河川の氾濫

ポイント

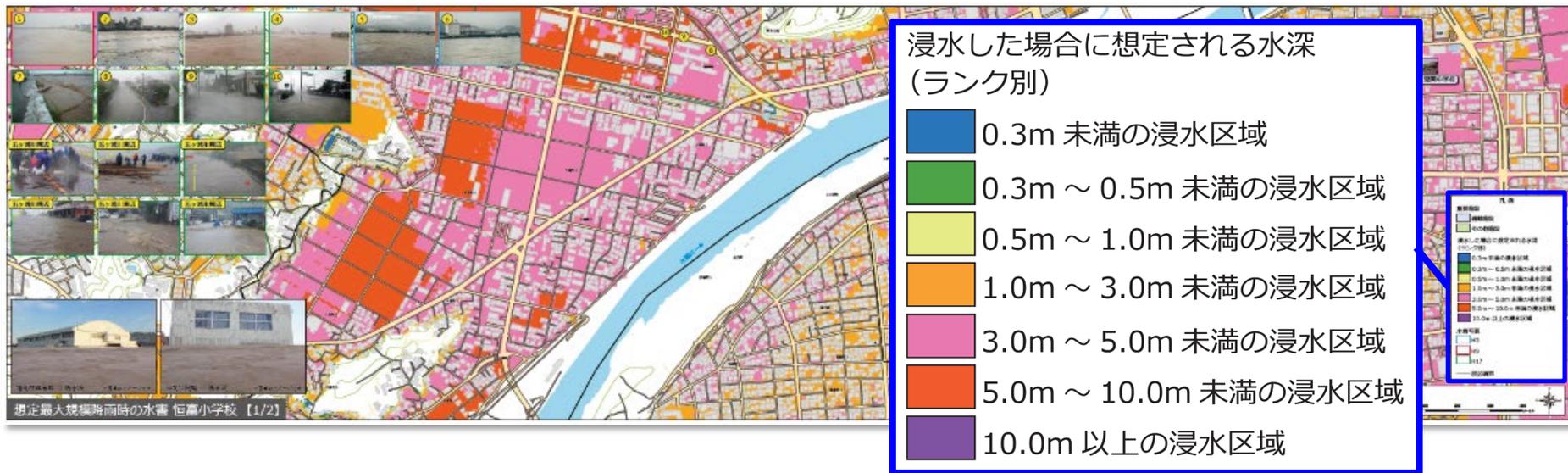
- 台風が発生してから川の水が溢れて災害が発生するまでの一連の流れをイメージしてもらいます。
- **雨や風が強くなり、道路に水が溜まってからの避難するのはとても危険**であること、だからこそ**早めの避難が必要**であることを理解してもらうことが大切です。

● 水害マップを見てみよう！

水害マップを活用して、学校周辺で起こりうる水害箇所を確認します。

■ 想定最大規模降雨時の水害マップとは...

今後発生しうる想定最大規模の降雨時の水害箇所を図化したマップです。
 想定最大規模降雨時の洪水を対象に、浸水状況を地図に示しています。



- 子どもたちがマップを理解しやすいように、**小学校区内の主要な施設を写真**で示しています。
- エリアを示す色によって浸水深の大きさがわかることを説明し、**より危険なところを理解**してもらいます。
- 水害マップは大判で印刷し、教室などに貼っておくことで日頃から学校周辺の被害をイメージすることができます。

②自分たちでできることを考える

● 水害が起きたとき、自分たちでできることを考えよう(グループワーク)

水害写真集や被害映像ショートムービーを見て、子どもたちが水害時に①自分たちが困ること、②自らを守るためにできることを考えます。

<グループワークのやり方>

- ◆ グループごとに集まり、自分たちでできることを意見交換してもらいます。
- ◆ 意見交換は付箋とワークシートを活用します。

水害のときにどんなことが困るかな

避難するところがわからない

水が浸かって歩けない

どこに逃げれば安全なのかわからない

強い風で木が倒れたりする

夜だと暗くて道が良く見えない

フセン紙とワークシートを使ってできることを書き出す

日頃からどんなことが準備できるかな

避難所を確認しておく

避難訓練をする

むかしの水害があったところを知っておく

家族でやくそくことを決めておく

次の授業で実際にまちを歩いて危険な箇所を確認してみよう！
防災マップをつくってみよう！

避難の際に危険な箇所を確認してみよう

- ①低い地盤（日頃から水たまりになりやすい箇所）
- ②蓋のない水路、田んぼなど転落すると危険な箇所
- ③大きな段差や急な坂
- ④土砂災害・土石流のおそれがある箇所
- ⑤鉄砲水で急激に水位が上昇し溢れる水路 など

ポイント

- 日頃からできることを自らで考え、意見を出すことを目的としています。そのためグループでブレインストーミングをし、それぞれの意見を否定しないことが大切です。
- 意見から次回授業「まち歩き」につなげます。

● 防災まち歩き探検とは？

防災まち歩きとは何か、実施する目的について説明します。

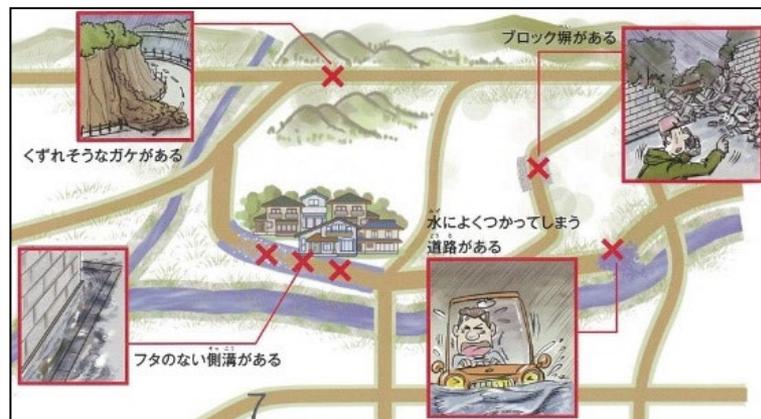
- ◆ 防災まち歩きとは、**実際に地域を歩いて、避難する際に危険なところを確認**することを目的としています。
- ◆ **確認したこと、気が付いたことを記録して地図に反映することで防災マップを作成**することができます。

安全ポイントって？

- ・避難所(ひなんじょ)
- ・病院(びょういん)、学校(がっこう)
- ・広場(ひろば)・あきち
- ・防犯灯(ぼうはんとう)
- ・防災(ぼうさい)スピーカー
- ・消火栓(しょうかせん)
- ・自動販売機(じはんき)
- ・公衆電話(でんわ)
- ・こども110番

キケンポイントって？

- ・ふかい溝(みぞ)
- ・ふたのないみぞ
- ・坂道(さかみち)・だんさ
- ・がけ
- ・地(じ)すべりカンバン
- ・たおれそうな堀(へい)
- ・落ちてきそうなモノ
- ・道路のくぼ地
- ・あぶない交差点
- ・マンホール



- ・ 予め台風が直撃することが台風情報で分かっている場合は、おそらく休校となっている可能性が高く、自宅からの避難となります。**実際に自分の家から避難際に注意すべきことや、地域に潜むキケンポイントや安全ポイントに日頃から意識してもらうことが大切です。**
- ・ まち歩き探検をして感じたことを家に帰ってから家族に伝え、**避難について考えることが自然災害に対する備えになります。**地域とのかかわりも考えておくことが大切です。

● まち歩き探検

前回の授業で確認したルートを、班ごとに探検します。

歩き探検では、子供たちが自ら危険箇所を確認します。まちに出て探検隊の気分で楽しみながら、自分のまちの危険と備えについての知識を自然に身につけることができます。

フタのない水路があるね。浸水すると道路と区別がつかないから危険！

このあたりはどうか？考えてみて！



歩き探検では、子供たちが自ら危険箇所を確認します。そのためのサポートを教員と保護者等で行います

● 何を持っていくの？

まち歩き探検には学校周辺のマップと、現地記録するための用紙を持参します。

気づきをチェックシートに記入



メモ・画版

- 危険箇所の場所を白地図に記入します
- どんな危険が潜んでいるかをチェックシートに記入します

- まち歩き探検の際に、第1回の授業で確認した「水害の怖さ」を復習します(なぜ早めの避難が必要なのか、逃げ遅れるとどうなるのか、まちのどのくらいまで水が来るのか、など)。

④防災マップの作成

● まち歩き結果の整理

まち歩きで確認した危険箇所や気づいた点を付箋紙やシールを使って整理します。



シールが活用
できます

全員で考えます

避難場所	防犯灯	消火栓	ため池	車注意
広場	防犯スピーカー	防火水そう	急な坂道	信号のない横断歩道
こども110番の家	川の警告灯	深みぞ	たおれぞうなもの	段差
警察署・派出所	危険度レベル表示	がけ・地すべり注意	落下	高圧の電気
病院	公衆電話	水につかりやすい道路	危ない交差点	ケケン
文学校	自動販売機	水につかりやすい場所	道路がせまい	その他



フセン紙に気づいたところ
を書き出す



シールを
貼っていく

ポイント

- ・ フセン紙に気づいたところを書き出していくときに、全員が参加できるように。
- ・ 短時間で整理できるように、**シールを使って整理していきます。**

● 成果発表

グループごとにまとめたマイ防災マップの成果を発表し、全員で情報共有します。

発表した成果は家族で避難について話し合うきっかけになります

成果の発表



僕たちの班は・



各班の気づきを共有します

おうちに帰って家の人と実際に避難について考えみよう！

ポイント

- 発表や意見交換をすることで、各グループで実施したまち歩きでの気づき共有できます。

(参考) 家族や地域への展開

- ◆ 防災授業で学んだことを自ら行動できるようにするためには、日頃からの備えが大切です。自分たちの住んでいる場所で、どのように行動するかを家族で話し合い、いざというときに備えておくことが重要です。

① 家族で共有

- 児童が学習した水害の怖さや、作成した防災マップ、意見交換で考えた自分たちでできることなどを、帰宅後に家族と共有
- 家族の避難計画(避難する場所、避難路)の確認や、水害時の連絡手段、約束事などを確認

② 地域で共有(地域、コミュニティ全体の防災力向上)

- 同じ地区の住民や消防団の方から地域の水害に関することを教えていただくことで、マイ防災マップをさらに充実化
- 児童が作成したマイ防災マップについて、自治会や自主防災組織で取り上げてもらい、地区防災マップ、コミュニティ防災マップなどに発展

理科の授業『流れる水のはたらき』

— 小学5年生を対象 —

学習の流れ

○単元導入 流れる水のはたらき

川の曲がったところや、普段のときと大雨のとき、大雨の後の川の写真を比べて、気づいたことを話し合う

○第1時 地面を流れる水

流れる水には、どんなはたらきがあるのだろうか？

流れる水の量が増えると、はたらきはどうなるだろうか？

○第2時 川の流れとそのはたらき

わたしたちの地域の川のように、どうなっているのだろうか？

山の中、平地、海の近くでは、川のように、川原の石や砂などのようすは、どのように変化しているのだろうか？

○第3時 川とわたしたちの暮らし

川は、どんなときに、周りのようすを変えるのだろうか？

○第4時 わたしたちの暮らしを守る

わたしたちが川とともにくらすためのくふうは、ほかにどんなものがあるだろうか？

授業の概要（参考事例：岡富小学校）

五ヶ瀬川を題材とした理科の授業（11月6日） ～流れる水には、どんなはたらきがあるのだろうか～

五ヶ瀬川を題材とした理科の授業が岡富小学校の5年生を対象に行われました。平成30年11月6日の授業では、流れる水のはたらきについて、五ヶ瀬川の模型やイラスト図、航空写真を活用して学びました。11月7日の授業では、水害の映像や雨量計、五ヶ瀬川の石を使って、五感を働かせながら、川の流れとそのはたらきや川とわたしたちの暮らしについて学びました。



中村先生

【学習活動】赤枠の部分を実施

- 単元導入：流れる水のはたらき
- 第1時：地面を流れる水
- 第2時：川の流れとそのはたらき
- 第3時：川とわたしたちの暮らし
- 第4時：私たちの暮らしを守る

【実施概要】

- 日時：
 - ①平成30年11月6日 8:45～10:25
 - ②平成30年11月7日 8:45～12:15
- 対象：岡富小学校5年1組、2組
- 会場：岡富小学校理科室（3階）

①単元導入 航空写真とイラスト図より流れる水のはたらきを知る



イラストを使って流れる川のはたらきを学びました 模型を使って五ヶ瀬川の流域も確認しました

五ヶ瀬川の航空写真、イラスト図、雨量計、雨量計の説明、五ヶ瀬川の模型、五ヶ瀬川の上・中・河口の石、水害の写真、水害写真、国々の取組、五ヶ瀬川防災ポータルサイト、掘削、100年を語る

授業で活用された五ヶ瀬川に関する資料（国土交通省より提供）

五ヶ瀬川を題材とした理科の授業（11月7日） ～わたしたちの地域の川はどうなっているのだろうか～

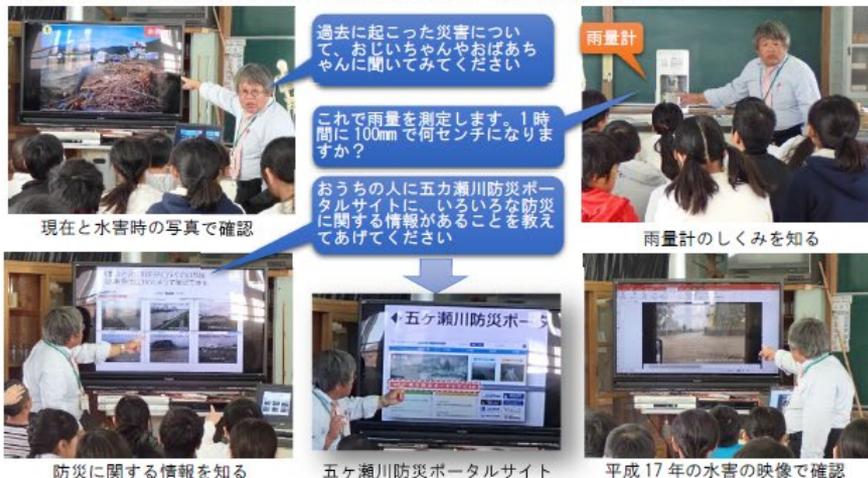
①川の流れとそのはたらき 五ヶ瀬川の石を目で見て、触って確認する

■山の中、平地、海の近くでは、川のように石や砂のようすは、どのように変化するかをスライドや五ヶ瀬川実際の石を障って、石の形や大きさが変化していることを学びました。



②川とわたしたちの暮らし 水害時の写真や映像、雨量計などを見て学ぶ

■川はどんなときに、周りのようすを変えるのか、平成17年水害の写真や映像を見て学びました。



③私たちの暮らしを守る 災害から暮らしをまもるための取組を学ぶ

■私たちが川とともにくらすためのくふうは、どんなものがあるかを考えるために身近な五ヶ瀬川を管理している国の取組について学びました。



○航空写真の活用

川の曲がったところや、普段のときと大雨のとき、大雨の後の川の写真を比べて、気づいたことを話し合う資料として活用できます。



岡富小学校はどこにあるかな？

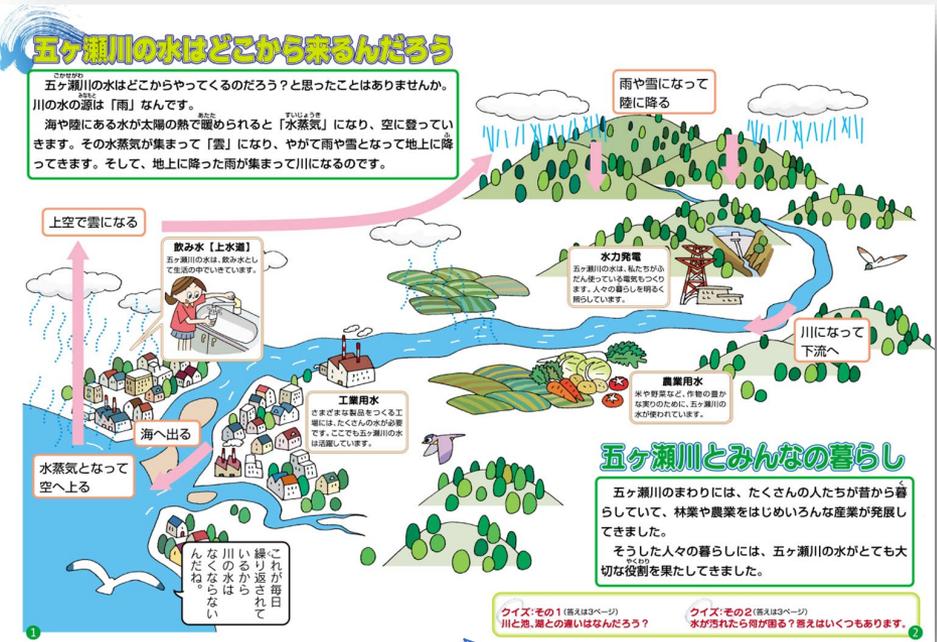


五ヶ瀬川の水の流れを示したイラストの活用

○五ヶ瀬川のイラスト図「水はどこからくるの」の活用

水は水蒸気に姿を変え繰り返し循環していることを復習、4年生で習ったことの復習に活用できます。

雨が降ったら水はどこに流れていくかな？



国土交通省延岡河川国道事務所から提供

ポイント

降った雨がどこにながれていくかをイラストを見ながら分かりやすく説明することができます。クイズ形式で授業を進めることができます。

川はどうやってできるんだろう

○五ヶ瀬川のイラスト図「川はどうやってできるんだろう」の活用

降った雨が低いところに集まって五ヶ瀬川に流れることを説明するのに活用できます。

降った雨が低いところに流れていきます。そして五ヶ瀬川に集まっていきます。五ヶ瀬川の特徴は中流と下流が短いことです。

川はどうやってできるんだろう

地上に降った雨が川になるようすを見てみよう。

五ヶ瀬川の流域

流れてなに？
 川を流れる水の大部分は雨水です。その川に流れ込む雨の降る範囲をその川の流域といいます。

一度、地中にしみこんだ雨水が、別の場所から地表に出て川に流れ込むこともあります。

降った雨が低いところに流れていく

集まった水が小さな川になる

小さな川がいくつも集まる

いろいろな川がさらに集まって大きな川になる

上流 中流 下流

川のはたらき

流れが急で川幅もせまい。滝や岩がある。

川が曲がっている。瀬や平瀬・早瀬がある。

流れがゆっくりで川幅も広い。

大きくてゴツゴツした岩が多い。棲んでいる魚はカマツカゼ、カサゴ。

岩が小さくてよくはなっている。棲んでいる魚はカマツカゼ、カサゴ。

小石や砂が多い。棲んでいる魚はアユ、サケ。

クイズ1のこたえ
 川へ雨や雪のふりかたいたちが降り降り降ると、その水は川に流れ、川を流れる水を集めるための川に注ぎこむ。川に注ぎこむ水は、川を流れる水を集めるための川に注ぎこむ。川に注ぎこむ水は、川を流れる水を集めるための川に注ぎこむ。

クイズ2のこたえ
 魚がにらむ生き物がなくなる。魚や虫がなくなる。川がきれいになる。川がきれいになる。川がきれいになる。

クイズ3のこたえ(答えは5ページ)
 下流になるほど小石や砂が多いのはなぜだろう？

クイズ4のこたえ(答えは5ページ)
 川はなぜ曲がるのだろうか？



国土交通省延岡河川国道事務所から提供

ポイント

降った雨が低いところに集まることを説明するときは、次頁の模型を使用すると立体的に高いところから低いところに水が流れることを分かりやすく説明できます。

○五ヶ瀬川流域の模型の活用

五ヶ瀬川流域の模型を使って、山から低いところへ流れて五ヶ瀬川に集まることを説明するときに活用できます。



国土交通省延岡河川国道事務所から貸し出し



ポイント

模型を使用すると立体的に高いところから低いところに水が流れることを分かりやすく説明できます。子どもたちも、起伏があるので、見て、触って確認することができます。

○水害写真集の活用

水害写真集によって大雨のときの川の様子を見ることができます。



水害写真集で
確認できます



水害写真集によって、大雨のときの川の様子を現在写真と比較してみることができます。

現地で採取した石の活用

○現地で採取した石の活用

現地で採取した石を見て触って学習する際に活用できる。



実際に現地でとった石があります。触ってみましょう



国土交通省延岡河川国道事務所から貸し出し

上中下流で石の大きさが違う



ポイント
実際に現地でとった石を使うことで子供たちの興味をひくことができます。

○水害写真集の活用

身近な川の水害時と平常時の写真を活用した説明に活用できます。

こんなときに川を見に行くことは危険なので絶対に見にいかないでくださいね



このようなときに川を見に行くことは危険

五ヶ瀬川 岩熊大橋

ポイント

水害写真集を使えば、近傍の川の水害時と平常時の写真を活用することができます。大雨のときの川の様子は五ヶ瀬川防災ポータルサイトで確認できることを教えることができます。

五ヶ瀬川防災ポータルサイトの活用

○五ヶ瀬川防災ポータルサイトの活用

大雨時に実際の川の様子を見に行くことは危険です。自分の地域の身近な川をインターネットで確認できることを説明できるので活用できます。

また、身近な五ヶ瀬川の防災情報（水位や雨量）をこのサイトで確認できます。



おうちの人に五ヶ瀬川防災ポータルサイトに、防災に関する情報があることを教えてあげてください。

国土交通省延岡河川国道事務所のホームページで提供
<http://www.qsr.mlit.go.jp/nobeoka/>



大雨のときに絶対に川を見に行ってはいけません

川のカメラ画像で川の様子が見れます

ポイント

五ヶ瀬川防災ポータルサイトを紹介して防災情報の確認の仕方を教えることができます。大雨のときに川を見に行かなくても河川のカメラ画像で確認できることを教えることができます。

○雨量計の活用

どのような器具を使って雨量を測っているのかの説明に活用できます

これで降っている雨の量を測ります
1時間に100mmで何センチになりますか？



雨量計

国土交通省延岡河川国道事務所から貸し出し

ポイント

実際に使われている雨量計を使って説明することで子供たちの興味を引くことができます。

○わたしたちの暮らしを守る

暮らしを守るために地域でやられている取組の紹介に活用できる。

私たちの暮らしを守るためにいろいろな取組がされています。



ポイント

暮らしを守るための取組について、近年実施された掘削や嵩上げなどの整備をスライドを使って分かりやすく説明することができます。

参観授業『災害から命を守る』

— 全学年を対象 —

参観授業の概要（参考事例：岡富小学校）

全学年で防災教育の実施（5月19日） ～災害から命を守るための行動を考える～

1年生から6年生（6年×2クラス＝12クラス）のすべての学年で、五ヶ瀬川を題材とした写真やDVD（動画）を用いて45分間の授業を実施した。



■日時：平成30年5月19日 9:05～9:50
■対象：岡富小学校 全学年児童（1年生から6年生（6年×2クラス＝12クラス）） ■会場：各教室

【学習活動】

- ①平成17年の台風14号による洪水の映像を視聴する。
- ②宮崎県防災教育教材「災害から命を守る」を視聴する。（兵庫県佐用町の事例、降雨量の説明）
- ③どう行動すればよいか考える。 台風→強風・大雨・洪水
- ④各グループの意見を発表する。（考えられる危険、身を守るためにどう行動するか?）
- ⑤宮崎県防災教育教材「災害から命を守る」を視聴して、身を守る行動を確認する。

五ヶ瀬川を題材にした学習資料の活用

平成29年度の5年生の防災授業において活用した「五ヶ瀬川を題材にした学習資料」を活用して、全学年で授業が実施された。

- 写真1 UMKビル洪水満杯写真と平常時写真
- 写真2 キング理容の水害時と平常時写真
- 写真3 天照閣ビル出水と寿司市場写真（現在の平常時）



平成29年度に活用された学習資料

どうする 大雨だ かみなりだ



めあて
台風、大雨、洪水から身を守るために、
どのような行動をとればよいかを考える



考えられる危険
おぼれる
逃げ場がない
歩けない
建物が崩れる
流される
.....



身を守るための行動
○避難前の行動
すぐに避難できる準備をする、.....
○避難時の行動
高いところに避難する、.....

五ヶ瀬川の水害の資料を活用した防災授業のイメージ

保護者への防災講話の実施（5月19日） ～ 水害について考える ～

全学年の保護者を対象に「洪水に備える」と題して講演会を行った。

【講話の内容】

- 関東・東北豪雨の3つの課題
（避難しない、広域的な浸水、浸水継続時間が長い）
- H17台風14号の洪水の概要（浸水写真と通常時の比較、CATVの動画）
- 河川防災情報の入手方法
- とるべき行動（避難場所、浸水想定区域の確認、避難すべき事態）
- お願い（本日、家庭内で児童と防災について会話していただきたい）



小野課長

■日時：平成30年5月19日 10:00～10:45
■対象：岡富小学校 全学年保護者 ■会場：岡富小学校体育館 ■人数：約200人



防災情報の入手についての情報提供



防災講演会資料（一部抜粋）

防災情報の入手についての情報提供

参観授業『災害から命を守る』

どうする 大雨だ かみなりだ



めあて

大雨やかみなりの時にどのように命を守ればいいのか考えよう

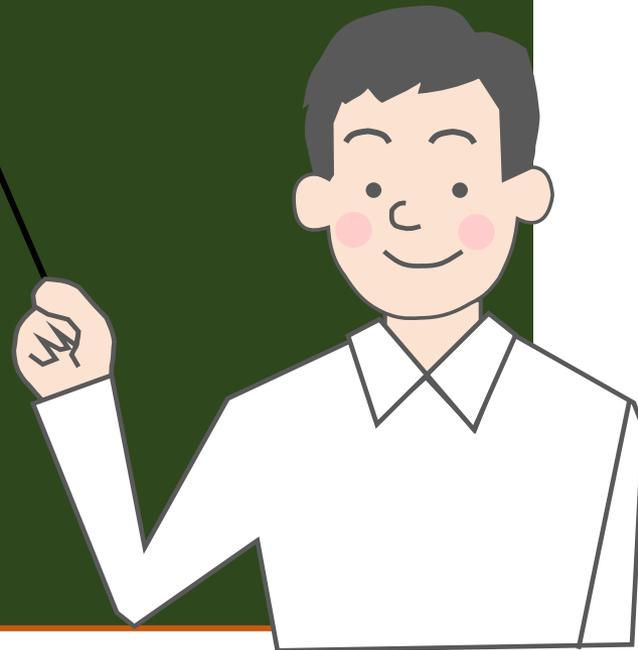
大雨のときは

おぼれる
逃げ場がない
歩けない
建物が崩れる
流される
.....



身を守るために

- 避難前の行動
すぐに避難できる準備をする、.....
- 避難時の行動
高いところに避難する、.....



水害写真集を用いて、通学路等で目にする身近な場所で過去に発生した水害を確認して身を守るための行動を考えます想像する。

水害写真集の活用

◆現在と水害時を比較した写真

現在と水害時を対比して説明します子供たちは、自分たちが知っている場所で川の堤防を超えたことや腰のあたりまで水がきた写真を確認することができます。



この写真番号は大判の写真番号と同じです

現在の写真と水害の写真を対比して説明します。子供たちは、自分たちが知っている場所で川の堤防を超えたことや腰のあたりまで水がきた写真を見て、どの程度の洪水だったかを認識することができます。

ポイント

水害写真集によって、過去に発生した水害を現在写真と比較することでより水害を身近に感じることができます。

防災講話『水害について』



水害映像
を使用



ポイント
授業参観後に実施することで、保護者の方にも子供たちと一緒に防災について家庭内でも考えてもらうことができます。

国土交通省の方に、過去に発生した洪水や防災情報の入手方法、提供されている情報の内容について紹介していただく。

防災講演会資料（一部抜粋）

防災情報の入手についての情報提供